DA障害関係

	分類番号	タイトル名	内容		
1	DA2007-015	音のない時を刻んで	聞こえる人と聞こえない人とのコミュニケーションの壁は大きく、そのために生活の中でさまざまな問題が生じることが多い。この作品は聴覚障害者が東京都ろうあ者更生寮を利用し、地域で生活していく様子（1988年から1993年）を記録した映画である。		
			利用区分：A-3	51分	字幕
2	DA2007-016	ことばへの思い	東京都聴覚障害者生活支援センター（旧東京都ろうあ者更生寮）の自主制作作品。ことばの世界から取り残されてきた一人の入所者が、少しずつ自立へ向かっていく過程や、ことばの学習、地域に開かれた演劇祭など、当時の施設内での取り組みが描かれている。聴覚障害のもつ不自由さや、「共に歩む」ことの大切さが訴えられる。		
			利用区分：A-3	37分	字幕
3	DA2008-009	きらっといきる　振動を感じて駆け抜けろ！～聴覚障害・西田文彦さん～	奈良県に住む聴覚障害者の西田文彦さんは，世界で活躍するプロレーサーを目指している。しかし周囲からは障害者がレースをすることは危険だと言われていた。 夢をあきらめきれなかった西田さんは，ある人との出会いが大きなきっかけとなり，プロレーサーの夢に向かって進み出す。西田さんの夢に向かっての挑戦を紹介する。		
			利用区分：B-3	29分	字幕
4	DA2008-010	きらっといきる　波に乗り世界へ　～聴覚障害・竹本裕行さん～	竹本裕行さんは徳島聾学校に通う16歳。夢はプロのサーファーになること。ろう者の父親も，かつてはデフサーファーの日本第1位だった。聾学校の寄宿舎に入っているため練習が十分にできなかったり，卒業後の進路のことなど悩みも多い。世界を目指す竹本さんの試行錯誤の日々を追う。		
			利用区分：B-3	29分	字幕
5	DA2008-013	夢の扉　NEXTDOOR　EPISODE132　聴覚障害者の生活圏を広げる機械を発明した男　斎藤勝	聴覚障害者にとって便利な道具シルウォッチ。シルウォッチは、ＦＡＸの着信音や玄関の呼び鈴などの音を、文字と信号に変えて聴覚障害者に知らせてくれる。この機械を開発したのが、齋藤勝さん。斎藤さん自身、聴覚に障害をもつ難聴者。自分が生活で感じた不便を解消するためにつくった機械が、今、さまざまな分野で活用され始めている。　斎藤勝／大櫛エリカ		
			利用区分：B-3	25分	字幕
6	DA2008-016	情熱大陸　プロボディーボーダー　甲地由美恵	世界ツアー初参戦でいきなり日本選手最高位の11位となったプロボディーボーダーの甲地由美恵さん。2歳の時、感音性難聴で聴覚を失った甲地さんは、18歳で出会ったボディーボードによって人生が変わったという。「海は自分が1人の人間で居られる唯一の場所」と言い切る彼女が、世界戦に挑戦する姿を追う。		
			利用区分：B-3	25分	字幕

7	DA2009-007	課外授業ようこそ先輩みんな生きていればいい　東京大学准教授　福島智	福島さん（45歳）は、目が見えず耳も聞こえない全盲ろう者で、東京大学でバリアフリーを研究している。今回は、小学校3年生まで通った母校・神戸市立舞子小学校で6年生に授業をする。 子供たちは実際に、見えず聞こえないという状態を疑似体験し、その恐ろしさ、寂しさ、孤独を体感する。そんな子供たちに福島さんは、「それでも生きていればつながれる」と語りかける。		
			利用区分:B-3	29分	字幕
8	DA2009-008	道徳ドキュメント人生はチャレンジだ　静寂のマウンド	鍛え抜かれた者たちが技を競い合うプロ野球の世界で、ハンディを乗り越えて活躍する石井裕也投手。石井投手は生まれながらの難聴で、右耳はわずかに聞こえるが、左耳はほとんど聞こえない。しかし石井投手は、難聴というハンディをも投球に生かして戦っている。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
9	DA2009-009	ろうを生きる難聴を生きる　夢は一流シェフ	東京都立葛飾ろう学校には調理師免許を取れるコースがあり、全国から料理人を目指す若者が集まる。藤林恭兵さんもその1人。学校でプロの料理人から直接調理の指導を受けた藤林さんは、一流ホテルの厨房に就職が決まった。ホテルでは、宴会の食事サービスや英会話の研修も行われる。聞こえる人の世界にひとり飛び込んだ藤林さんの姿を追う。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
10	DA2009-010	ろうを生きる難聴を生きる　聞こえなくても快適に暮らせる家作り	東京都清瀬市に暮らす島澤さん一家。妻の美保さんは聴覚障害者だ。島澤さん一家は、聴覚障害者が快適に暮らせる家作りに挑戦した。ポイントは3つ。壁を取り払い見通しをよくすること。意識的に向き合える空間をつくること。そして必要に応じて視覚情報機器を使うこと。その結果、家族とすぐコミュニケーションがとれる聴覚障害者にとって暮らしやすい家ができあがった。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
11	DA2009-011	きらっといきる　もう1度社会へ～聴覚障害・草野陽幸さん悦子さん夫妻～	大阪府茨木市の草野さん夫妻は、ともに聴覚障害者。聞こえる人に囲まれた仕事場で、うまくいかなかった経験を持つ。そんな2人が今新しい一歩を踏み出そうとしている。きっかけは幼い娘たち。聞こえない両親のために、周囲の話を手話で伝えようと頑張る娘の姿を見て、もう一度社会に飛び込んでみようと思ったのだ。 草野陽幸／草野悦子／ジェフ・ランバート／牧口一二		
			利用区分:B-3	29分	字幕
12	DA2010-001	カラフル！千恵のまいにち日っき	としおか千恵ちゃんは小学生の女の子。学校であったできごとを毎日日記に書いている。友だちのこと、先生のこと、お勉強のこと。学校で友だちとけんかをしても、次の日には笑顔で仲直り。 ダウン症の女の子の生活の一コマを送る。		
			利用区分:A-3	15分	字幕

13	DA2010-002	福祉ネットワーク　受け容(い)れる勇気をもって	奥田哲生さん(41歳)は、車いすで生活しながら自宅で塾を開いている。奥田さんは28歳でギラン・バレー症候群を発症し手足の自由を失った。突然障害者となった自分を受けいれることができず、家に引きこもりがちだったが、笑顔を取り戻すきっかけとなったのは、塾の生徒たちとの交流だった。奥田さんと生徒たちとの交流の日々を追う。		
			利用区分:A-3	29分	字幕
14	DA2010-003	きらっといきる　“すれ違い”からはじまったけど…	大学3年生の大畑明子さんは、生まれつき耳が聞こえない。大学でスポーツ行動学を勉強している明子さんは、「卒業後は、子どもたちにスポーツを教えたい」と考えている。 スポーツクラブでの実習に臨んだ大畑さんの姿を追う。 山本シュウ／玉木幸則		
			利用区分:A-3	29分	字幕
15	DA2010-004	ハートをつなごう　NHK障害福祉賞(1)	44回目を迎えたNHK障害福祉賞。今回は、455編の作文が寄せられた。番組では、その中から2名の作品を取り上げ紹介する。 1日目は、小山田弘佑さん(28歳)。小山田さんは軽度の知的障害があり、そのために長年いじめを受けていた。また十代で母親が病死するというつらい体験をしたこともあって、20歳を越えたころから自殺未遂を繰り返すようになった。 そんな彼が、作文を書くことで自分と向き合い、立ち直ってきた体験を語る。 ソニン／石田衣良		
			利用区分:A-3	29分	字幕
16	DA2010-005	ハートをつなごう　NHK障害福祉賞(2)	NHK障害福祉賞を紹介する2日目。三重県の岡田くめ子さんは統合失調症の娘・彩さんとの闘病についてつづった。彩さんは親のすすめで進学した大学が自分に合わず心を病んでしまった。病気をきっかけに娘の心と向き合ったくめ子さんは、「娘を最高の回復者第1号にしよう」と決意。やがて彩さんは回復し、自分が大好きだった本にかかわる仕事・図書館司書に就くまでになる。 ソニン／石田衣良		
			利用区分:A-3	29分	字幕
17	DA2010-006	ろうを生きる難聴を生きる　日本のろう者にとってのギャローデット大学～留学経験者は語る～	世界で唯一の聴覚障害者のための大学ギャローデット大学。日本からも数多くの聴覚障害者が留学している。スタジオに2名の留学経験者を迎え、ギャローデットで学んだこと、世界のろう者との交流経験などを伺い、留学を通じて何を学んだのかを見つめ直す。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
18	DA2010-007	ろうを生きる難聴を生きる　“ことば”を持たないお年寄りとともに	高齢のろう者の中には学校に通ったことのない人が数多くいる。このような未就学のろう高齢者たちは、介護のための施設に入っても周囲とコミュニケーションがとれず、孤立したり認知症と誤解されてしまうことが多い。ある未就学ろう高齢者への周囲の働きかけを見ていきながら、この問題について考える。		
			利用区分:B-3	15分	字幕

19	DA2010-008	ろうを生きる難聴を生きる シリーズ・被爆を語る～聞こえない人と情報について考える～ （2008年7月27日放送）	長崎の山崎榮子さんは原爆被爆者。平和祈念式典では、迫真の手話で被爆の恐ろしさ、平和の誓いを訴えた。疎開先で原爆投下の8月9日を迎えた山崎さんは、その日の夕方爆心地に入り被爆した。被爆と同時に長らく山崎さんを苦しめたのは、ろう者であるが故に情報から閉ざされ、真実を知るのが遅くなったことだ。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2010-009	ろうを生きる難聴を生きる シリーズ・被爆を語る～聞こえない人と情報について考える～ （2008年8月10日放送）	山崎榮子さんを迎える2回目。長崎で被爆した山崎さんは、その後1年間も原爆のことを詳しく知らず、普通の爆弾だと思っていたという。聞こえる両親のもとに生まれた山崎さんに、事実を手話で話してくれる人がいなかったためだ。山崎さんは情報から疎外されていたことに今も悔しさを感じているという。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
20	DA2010-010	ろうを生きる難聴を生きる 今要約筆記を考える～字幕付与技術シンポジウム～	聴覚障害者にとって大切な情報保障手段の1つ要約筆記。要約筆記で聴覚障害者に正確にわかりやすく伝えるには何が必要なのか。 要約筆記について考えるシンポジウムの様子や最新の音声自動認識システムを紹介する。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
21	DA2010-011	ろうを生きる難聴を生きる 挑戦！パントマイム　～鮫島加奈江さん～	北九州で開催された「パントマイムフェスティバル」に挑戦する多くの市民の中に、鮫島加奈江さんがいた。彼女は聴覚障害者だ。 聞こえる聞こえないという壁を超えた関係を周囲と築きながらステージに挑戦する彼女の姿を追う。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2010-012	ろうを生きる難聴を生きる サーキットに夢を追って　～ライダー西尾政紀さんの挑戦～	ろう者の西尾政紀さんは、バイク好きの父の影響で、子どものころからバイクが好きだった。 21歳で免許を取得し、25歳で念願のサーキットデビューをした。 西尾さんの目標は、同じろうのライダーとチームを組み、4時間耐久レースに出場し上位入賞すること。目標に向かって走る西尾さんを追う。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2010-013	ろうを生きる難聴を生きる 4コマ漫画　描き続けて20年	中橋道紀さんは全日本ろうあ連盟の発行する日本聴力障害新聞の4コマ漫画を20年にわたって描き続けている。 漫画は聞こえない人にとって関心の高いテーマを素材にコミカルに描かれている。 中橋さんの4コマ漫画の作品を紹介する。		
			利用区分:B-3	15分	字幕

22	DA2010-014	ろうを生きる難聴を生きる　ろう学校の永続を願って　～特別支援教育を切る～	学校教育法の改正で、法的には特別支援学校となったろう学校。そんな中、ろう教育の専門性を大切にするために、ろう学校が反省と思い切った改革を行い、しっかりとしたろう教育を発展させるべきだと主張する人がいる。元岡崎ろう学校校長の市橋詮司さん。市橋さんに、現在のろう学校の教員に訴えたいことを話してもらう。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2010-015	ろうを生きる難聴を生きる　私は“サウンドクリエイター”～エブリン・グレニーさん～	エブリン・グレニーさんはイギリスの打楽器奏者で、グラミー賞を二度受賞している。彼女は聴覚に障害があり12歳でほとんど聞こえなくなったが、音を全身の感覚でとらえ、演奏する。そんなエブリンさんが、五感を研ぎ澄ますことの大切さについて語る。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
23	DA2010-016	ろうを生きる難聴を生きる　元全米ろう連盟代表に聞く～アラン・ホーウィツさん～	元全米ろう連盟代表、アラン・ホーウィツさんが、現在のアメリカの聴覚障害者が抱える課題について語る。一番大きな課題はろう教育で、ろう児が適正な教育を受けられるよう連盟が最優先で取り組んでいるという。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2010-017	ろうを生きる難聴を生きる　ノートテイクは今～四国学院大学の取り組み～	大学の講義を受講する聴覚障害者に欠かせない情報保障の1つ、ノートテイク。しかし大学により、その取り組みは様々だ。 香川県にある四国学院大学での取り組みを通して、大学でのノートテイクの実情と課題を探る。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
24	DA2010-018	中居正広の金曜日のスマたちへ　金スマ波瀾万丈　筆談ホステス　斉藤里恵	音のない世界に生きる、ホステスの斉藤里恵さん。言葉を話せない彼女の接客術は筆談。その筆談で、里恵さんは銀座のホステスナンバーワンとなった。 里恵さんをスタジオに招き、里恵さんの波瀾万丈な人生を紹介する。 中居正広／大竹しのぶ／斉藤里恵／室井佑月		
			利用区分:B-3	47分	字幕
25	DA2010-021	新春ヒューマンドラマスペシャル　筆談ホステス	銀座でナンバーワンホステスの斉藤里恵さん。彼女は耳が聞こえない。しかしその障害を乗り越えるために始めた筆談が客の心をつかみ癒している。 彼女がナンバーワンホステスになるまでの道のりを、ドラマで再現する。 北川景子／田中好子／福士誠治／手塚里美／戸田菜穂		
			利用区分:B-3	93分	字幕
26	DA2010-022	風の歌が聞きたい 音のない世界に生きる　聴覚障害夫婦の16年	これは聞こえない両親と聞こえる一人息子の16年間に及ぶ物語。親子でありながら息子とは住んでいる世界が違うとなかばあきらめていた両親が、風の歌を聴かせたくて息子を宮古島へ連れて行く。宮古島では両親がかつて参加したトライアスロンが開催されていた。一生懸命頑張った人にだけ聴こえる風の歌。両親の思いを息子は理解するのか。（番組の一部に放送時から音声を消している場面があります）　高島良宏／高島久美子／高島怜音		
			利用区分:B-3	101分	字幕

27	DA2010-023	きらっと生きる　わしらの太鼓はからだで感じろ ～聴覚障害・石川康文さん～	理容師の石川康文さんは、生まれつき聴覚に障害があり音はほとんど聞こえない。石川さんには理容師とは違うもう1つの姿がある。それは和太鼓のメンバーの姿だ。 石川さんと仲間たちの太鼓にかける情熱を紹介する。		
			利用区分:B-3	29分	字幕
28	DA2010-024	爆笑問題のニッポンの教養　File－074　私は　ここに　いる	全盲ろうという障害を持ちながら、日本で初めて大学教授になった福島智氏。専門は障害学で、障害学とは、そもそも障害とは何か？を考える新しい学問だ。 爆笑問題の2人と福島先生が、生きる意味や障害について語り合う。		
			利用区分:B-3	29分	字幕
29	DA2010-025	福祉ネットワーク　他人を信じて前に進め　～奈良　フリースクールの挑戦～	奈良県にある自然流自立塾NORAは、不登校や引きこもりの若者が学校や社会に戻ることを目指して共同生活を送っているフリースクールだ。スクールをつくった佐藤透さんは、NORAに来る若者たち一人一人に全力でぶつかっている。フリースクールを通じて、一歩一歩成長していく若者たちの姿を追う。		
			利用区分:B-3	29分	字幕
30	DA2010-026	福祉ネットワーク　公開すこやか長寿　石川県珠洲市	石川県珠洲市で行われた「公開すこやか長寿」。今回は日本ヨーガ光麗会の会長・番場裕之さんを迎え、ヨーガの基礎を学び、身も心も健康になる方法を学ぶ。		
			利用区分:B-3	29分	字幕
31	DA2010-027	ろうを生きる難聴を生きる 中途失聴者にとっての手話～今 求められる学習環境～	中途失聴の人が手話を覚えようとすると、まず学習の場のないことで苦労する。自治体などで行っている手話講習会は、ろう者とのコミュニケーションを前提に、聞こえる人を対象にしていることが多いからだ。 数少ない中途失聴者を対象とした講習会の模様を通して、その必要性を考える。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2010-028	ろうを生きる難聴を生きる 無くせ情報バリア	中園秀喜氏の著書「聞こえのバリア解消への提言」を通して、聴覚障害者のバリアについて考える。 特に病院や公共機関、交通機関など、情報保障の必要性の高い場においても十分な保障の行われていない現状について、その解決方法も含め、中園氏本人からお話を頂く。		
			利用区分:B-3	15分	字幕

32	DA2010-029	ろうを生きる難聴を生きる 夢は七大陸最高峰制覇 ～大窪康之さん～	聴覚に障害を持つ大窪康之さんは、7大陸の最高峰すべての登頂を目指し、平成21年4月の時点で、キリマンジャロとビンソンマシフの登頂に成功している。 大窪さんをスタジオにお招きして、登頂時の映像も交えながら今後の夢を語っていただく。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2010-030	ろうを生きる難聴を生きる ここが知りたい！ 聴覚障害者と裁判員制度	平成21年5月から始まった裁判員制度。裁判員は20歳以上の有権者からくじ引きで選ばれる。 実際に聴覚障害者が専任された場合、どのように参加することになるのか、弁護士の田門浩氏に説明していただく。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
33	DA2010-031	ろうを生きる難聴を生きる ろう者が作るアクション映画	ギャローデッド大学で映画製作を専攻したエミリオさんは、日本など4か国のろう者が参加したアクション映画を製作している。手話がパワーを持つ言語であることを世界中の人に知らせたいというエミリオさんの映画製作現場を紹介する。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2010-032	ろうを生きる難聴を生きる 手話が結んだ国際結婚	栃木県に住む渡邊さん夫妻は、どちらもろう者。奥さんは台湾で生まれ育ったが、2人はごく自然に手話でコミュニケーションしている。日本の手話と台湾の手話はとても似ていることが2人の距離を縮めたという。日本の手話と台湾の手話で生活する2人の日常を紹介する。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2010-033	ろうを生きる難聴を生きる どう広めるか“ろうあヘルパー	大阪聴力障害者協会が始めた、ろうあヘルパー派遣事業は、まだ全国には広まりを見せていないのが実情だ。この協会の先駆的な取り組みを紹介し、ろうあヘルパーの普及について考える。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
34	DA2010-034	ろうを生きる難聴を生きる シリーズ人工内耳 ～大人のケース～	高度の聴力障害の人の聞こえを補う人工内耳。15年前に保険が適用され、今までに6000人が手術を受けた。現在も毎年500人前後が手術を受けているという。人工内耳について医療現場の現状を大人のケースと子どものケースでシリーズで紹介する。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2010-035	ろうを生きる難聴を生きる　人工内耳② ～子どものケース～	聞こえを得る治療手段として注目を集める人工内耳。術後のケアは大人と子どもでは大きく違いがあるという。人工内耳の手術を受けた子どもに行う言語を獲得するためのトレーニングなどについて紹介する。		
			利用区分:B-3	15分	字幕

35	DA2010-036	ろうを生きる難聴を生きる 人形劇で広がる世界 ～デフパペットシアターひとみ　30年のあゆみ～	ろう者と聴者が共に活動する劇団、デフパペットシアターひとみ。人形劇を通じて、ろう者たちの活躍の場を広げ続けたひとみの活動の軌跡を追う。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2010-037	ろうを生きる難聴を生きる たたけ！体に響く伝統の音　小倉祇園太鼓　聾鼓（ろうこ）会	北九州・小倉の夏を彩る小倉祇園太鼓。100以上の山車が繰り出し太鼓を打ち鳴らす。聾鼓会はろう者が中心となって結成された。伝統の小倉祇園太鼓を守り続ける聾鼓会を取材する。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
36	DA2010-038	ろうを生きる難聴を生きる 筑前琵琶に魅せられて　～毛利英二さん～	福岡県の伝統楽器・越前琵琶は、千年の伝統を持つ琵琶に三味線の要素を取り入れて、明治時代に博多で生まれた。その越前琵琶に魅せられて、聞こえないながらもその制作に打ち込むのが、ろう者の毛利英二さん。制作にまつわる苦労話や越前琵琶に魅せられたきっかけを伺う。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2010-039	ろうを生きる難聴を生きる ろう文化を見つめて	平成21年7月に出版された書籍「『ろう文化』の内側から」。この、アメリカのろう文化研究者の著作を翻訳したのは、ろう者の森壮也さん・亜美さん夫妻。森壮也さんをスタジオに迎えて、ろう文化とは何か、どう向き合っていけばよいのかを伺う。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
37	DA2010-040	石橋勝のボランティア21 手話狂言で伝えるメッセージ　～西川慧子さんの挑戦～	主として科（しぐさ）と白（せりふ）によって表現されるこの芸能に挑戦を続けているのが西川慧子さんです。 実は西川さんは聴覚に障害があります。彼女たちが演じているのは、手話で台詞を語る手話狂言なのです。「聞こえないことは個性」そう語る西川さん。 35年も前、地元で初となるボランティアサークルを立ち上げ、手話の普及に尽力。今も彼女を支える人々とともに、障害がある人たちのために幅広い活動を続けています。（テレビ大阪HPより） 【字幕制作寄贈：福岡県聴覚障害者センター】 石橋勝／新井晴み／西川慧子		
			利用区分:B-3	25分	字幕
38	DA2010-041	ヒューマンドキュメンタリー　“私の家族”	小学生と中学生の3人の子どもを育てるある一家。家族の間に血のつながりはない。子どもに恵まれなかった夫婦は15年前、NPOを通じて生後数か月の赤ちゃんと特別養子縁組を行い、さらに2人を迎え育ててきた。子どもたちには産みの親が別にいることを隠さず伝えてきたが、最近12歳の長女が「産みの母に会いたい」と言い始めた。親子とは？家族のきずなとは何なのか？子どもが成長の節目を迎えた家族の姿を通して見つめる。		
			利用区分:B-3	43分	字幕
39	DA2010-042	福祉ネットワーク うちの子どもは世界一　ぼくと音楽のたのしい関係	小柳拓人さん（16歳）は自閉症で落ち着きがなく集団行動や、家族とのコミュニケーションがうまくいかなかった。5歳で音楽教室に通わせると通常、子どもが苦手とする「同じことを反復練習する」などといったことがピタリとはまりみるみる上達。音楽を通して場面に応じた行動をすることを次第に身につけていく。拓人さんの日常を紹介しながら、同世代の若者たちや自閉症や発達障害について正しく理解し、一人一人の個性を大切に生きるということを考える。		
			利用区分:A-3	29分	字幕

40	DA2011-001	福祉ネットワーク　シリーズ 地域からの提言　（1）地域みんなで子どもを育てる	新潟県上越市では10年以上前から市営の保育園「ファミリーヘルプ保育園」を開設。「土日だけ預かって欲しい」、「急な仕事が入った時だけ預かって欲しい」といった、従来の行政が対応しきれなかった市民のさまざまなニーズに応えている。しかも24時間の受け入れが可能なので、緊急時など母子がいつでも駆けこめるセーフティーネットとしても機能してきた。また、住民との連携にも注力していて、子育てする母親たちが作るNPO“マミーズ・ネット”と情報交換を行い、ベビーベッドが充実した施設を作ったり、父親や企業に子育てを理解してもらうための企業研修を支援したりしている。 どうしてこのようなユニークで効果的な対策が実現できるのか、財政学者の沼尾波子さんが検証する。 （NHKHPより）		
			利用区分：A-3	29分	字幕
41	DA2011-002	ハートをつなごう 「若者のこころの病」（1）	統合失調症、うつ病など、心の病の多くは若いころにその芽があると言われ、早期に支援することの有効性は、精神医療界の世界的なトレンドになっています。そこで、「若者のこころの病」を2回にわたって見つめます。 前回2009年12月8日放送の『ハートをつなごう　NHK障害福祉賞（2））』（DA2010-005）に出演し、放送後大反響だった岡田彩さんが再出演されます。 第1回は彩さんの軌跡を振り返りながら、若者がこころの病を発症する背景に何があるのか？ そしてどうサポートしていけばいいのか？ 当事者の悩みや思いをじっくりと語り合います。（NHKHP参照） ソニン／石田衣良		
			利用区分：A-3	29分	字幕
42	DA2011-003	ハートをつなごう 「若者のこころの病」（2）	統合失調症、うつ病など、心の病の多くは若いころにその芽があると言われ、早期に支援することの有効性は、精神医療界の世界的なトレンドになっています。そこで、「若者のこころの病」を2回にわたって見つめます。 第2回では、第1回に続き、岡田彩さんと中心に、孤立しがちな若者たちが“つながる”ことの大切さとその意味について語り合います。彩さんが参加する“ありのままクラブ”には同様の障害を持つ若者たちが集います。“ありのままクラブ”に通う二人の“うつ病”男性がスタジオで本音トークを繰り広げます。（NHKHP参照） ソニン／石田衣良		
			利用区分：A-3	29分	字幕
43	DA2011-004	ETV特集　思いでの街が甦る ～写真家・井上孝治の世界～	昭和30年頃の街と人々の暮らしを撮った井上孝治さん（大正8年～平成5年）。生涯、カメラ店を経営する傍ら写真を撮り続けたアマチュアカメラマンで、18年前に74歳で亡くなるまでに3万枚の写真を残しました。 井上さんは、幼いときの事故が原因で耳が不自由でした。話すことはできませんでしたが、人なつっこい性格で、特に子どもたちと仲良くなり写真を撮っていたといいます。音のない世界で、時代と風景を見つめ続けていました。その写真には、めまぐるしく移り変わる時の中で、わたしたちが置き忘れてきたものが写し出されています。 写真作品と、残された日記、そして家族・関係者の証言などから、井上孝治さんの生涯をたどります。 （NHKHPより）		
			利用区分：A-3	59分	字幕
44	DA2011-005	きらっといきる　マンガで伝えたい　ろうの世界 ～聴覚障害・松谷琢也さん～	奈良県に住む松谷琢也さんは生まれたときから耳が聞こえない。松谷さんは日々の生活の中で感じているろう者と聞こえる人との文化の違いをマンガでユーモアたっぷりに描く。松谷さんの伝えたいろう者の世界とは…。松谷琢也／山本シュウ／小林紀子／玉木幸則		
			利用区分：B-3	29分	字幕
45	DA2011-006	きらっといきる　いつも手と手をつないで ～全盲ろう　山口隆雄さん・幸子さん夫婦～	目が見えず耳も聞こえない全盲ろうの山口孝雄さんと妻の幸子さん。会話は互いに手と手を取り合って行う触手話という方法で行っている。手と手で絆を深め、毎日をいきいきと過ごす夫婦の姿を紹介する。山口隆雄／山口幸子／山本シュウ／小林紀子／玉木幸則		
			利用区分：B-3	29分	字幕

46	DA2011-007	福祉ネットワーク　105歳　最期の日々をわが家で ～香川　在宅ケアへの挑戦～	香川県に暮らす105歳の小佐古シケノさんは、自宅で家族に見守られながら亡くなった。シケノさんの唯一の同居人の息子・浩さんも病気を患っていたが、町の診療所の医師やヘルパーに支えられ母親の最期をみとることができた。シケノさんが亡くなるまでの生活を追う。		
			利用区分:B-3	29分	字幕
47	DA2011-008	福祉ネットワーク　この人と福祉を語ろう わたしと難聴と京都の関係 エッセイスト　麻生圭子さん	1980年代、作詞家として数々のヒット曲を生み出した麻生圭子さん。しかし難聴になり、作詞家を引退。その後エッセイストとして活躍し、今は京都に夫と暮らしている。今も難聴は進行しているが、その分見るものが以前より美しく感じられるという。難聴と向き合いながら日々を暮らす麻生さんに、その生き方を伺う。麻生圭子		
			利用区分:B-3	29分	字幕
48	DA2011-009	福祉ネットワーク　シリーズ 支援が必要な子どもたちへの教育 第1回“インクルーシブ”な教育	2006年に国連で採択された障害者権利条約。この条約の批准に向けて、国内でさまざまな取り組みが始まっている。インクルーシブな教育とは、障害者が自分が住む地域で、健常者と共に教育を受けること。長野県中野市の取り組みを紹介しながら、障害を持つ子供たちへの教育について考える。		
			利用区分:B-3	29分	字幕
49	DA2011-010	福祉ネットワーク　“盲ろう者” 生きる意欲につながる支援	2009年、東京に全国初の盲ろう者支援センターが開設した。全国に2万人といわれる盲ろう者に対して触手話などのコミュニケーション訓練をはじめ、調理などの生活訓練も行い、盲ろう者の自立や社会参加が広がることが期待されている。孤立して暮らす盲ろう者の実態を調査し、適切な支援につなげていく試みを進めるセンターの活動を紹介する。町永俊雄／福島智		
			利用区分:B-3	29分	字幕
50	DA2011-011	福祉ネットワーク　公開すこやか長寿 太極拳に学ぶ・柔らかな足腰の動き	栃木県那珂川町から、高齢者と学ぶ健康体操教室を送る。テーマは太極拳。深い呼吸とゆったりした動きの太極拳は、高齢者にもできる健康づくりだ。「調心」「調息」「調身」をキーワードに、すぐできる簡単なプログラムを紹介する。講師は日本健康太極拳協会の皆さん。		
			利用区分:B-3	29分	字幕
51	DA2011-012	ろうを生きる難聴を生きる サーキットに夢を託して ～4時間耐久レースに挑む聞こえないライダーたち～	全国のライダーたちにとってあこがれの舞台とも言える鈴鹿サーキットで、聴覚障害者で組織されたチームが注目を集めている。 メンバーは西尾政紀さんを中心とする近畿一円に住む約10人。彼らをひきつけるのは「風を切る快感」。当初は聴覚障害者の出場は危険と参加を渋る主催者と粘り強く交渉し、ようやく挑戦が実現した。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2011-013	ろうを生きる難聴を生きる デフアートに希望を託して	乗富秀人さんは手話をモチーフに手を描き続ける画家。ろう学校専攻科でデザインを学んだ後フランスの美術専門学校で油絵を学んだ。帰国後は風景画家として絵を描き続け受賞歴も多い。そんな乗富さんが5年ほど前に風景画をぴたりと止め、みずから「デフアート」と位置づけて「手」を描き続けるようになる。作品を通して、そこに込められたメッセージを紹介していく。		
			利用区分:B-3	15分	字幕

52	DA2011-014	ろうを生きる難聴を生きる 第2言語・日本手話 ～関西学院大学の“挑戦”～	関西学院大学人間福祉学部では去年から「日本手話」を第2外国語科目とした。全国初のこの試みがほかの大学にも波及すれば、言語としての手話の認知、ひいては社会での手話のさらなる普及にむけて追い風になると期待されている。 大学の試みを紹介する。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2011-015	ろうを生きる難聴を生きる 新宿居酒屋店主 ～ど根性10年の歩み～	東京新宿で10年前にろうの男性が開いた居酒屋が今も満員盛況の毎日が続く。店主は吉岡富佐男さん。10年続いた最大の理由は、聞こえない人だけでなく聞こえる人も大勢店に通い続けたことである。接客術、料理へのこだわり、店の雰囲気作り…「10年」の秘密に迫る。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2011-016	ろうを生きる難聴を生きる 人工内耳・心のケア ～「遊びクラブ」が目指すもの～	人工内耳は音の情報を電気信号に変え直接脳の聴神経を司る部分に送ることで聞こえを得る治療法である。しかし、期待された効果がなかなか出ないケースもあるなど治療結果には個人差が大きいことも浮き彫りになってきた。こうした中で重要性が指摘されているのがメンタル面のサポート、それも同じ悩みを知る人同士の自助活動が大きな力になる。人工内耳治療のメンタルサポートの重要性について考える。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
53	DA2011-017	ろうを生きる難聴を生きる 情報保障の可能性を広げよう ～字幕付与技術シンポジウム2009から～	京都大学学術情報メディアセンターが主催して開催された「聴覚障害者のための字幕付与技術」シンポジウム2009。 注目を集めた技術のひとつが、携帯ゲーム機や携帯電話に字幕を提供する技術。また、会場では、学術情報メディアセンターの河原達也教授たちが開発している自動音声認識システムJuliusを使ってリアルタイムで字幕を制作する実演も行われた。このふたつの技術を中心に、字幕付与技術の最新情報を伝える。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2011-018	ろうを生きる難聴を生きる 今医療手話を考える	全日本ろうあ連盟は今月「医療の手話シリーズ・第3巻　保健指導編」を出版した。連盟ではこれまで医療関係者も交えた制作委員会を作り病気や治療法に関係した手話表現の制作に当たってきたが、これでそうした手話がほぼ完成したことになる。 医療関係者、聞こえない人は「医療手話」とどう向き合ったらよいのか考える。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
54	DA2011-019	ろうを生きる難聴を生きる 今震災体験を語る ～永江眞樹さん～	神戸市に住む永江眞樹さんは15年前の阪神大震災を経験、その体験記をこのほど出版した。 「阪神大震災・聴覚障害を持つ主婦の体験」は永江さんが一家四人で体験した震災と避難生活をつづったものである。被災時に聴覚障害者がどんな体験に直面したか、改めて検証する。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2011-020	ろうを生きる難聴を生きる 意外に多い！？ ろう者と聴者　日本語のズレ	「手話と音声言語」というコミュニケーション手段の違いから意志疎通に困難を生じる健聴者と聴覚障害者だが、微妙なニュアンスの違いからも、さまざまなトラブル、誤解が発生する。 そうした用例を集めた本、「ろう者のトリセツ聴者のトリセツ～ろう者と聴者の言葉のズレ～」が出版された。数々の日本語の解釈のズレを実例に、互いをよく理解するためにどうしたら良いのか考える。		
			利用区分:B-3	15分	字幕

55	DA2011-021	ろうを生きる難聴を生きる ぼくと“おしゃべり”をしようよ イラストレーター・門秀彦さん	門秀彦さんはイラストレーターとして活躍するコーダ（聴覚障害の両親を持つ健聴の子ども）。手話を表す手をモチーフにした作品を描き続けてきた。 門さんが今力を入れるのが、絵の持つ「発信力」に聞こえない子どもたちにも気づいてもらい、描く楽しさを知ってもらうこと。描くことで周囲とかかわる自信をはぐくんでもらい成長してほしいと願う。 親の障害をみずからの創作エネルギーに変え、作品作りに取り組む、その姿を追う。		
			利用区分：B-3	15分	字幕
	DA2011-022	ろうを生きる難聴を生きる 夢は七大陸最高峰制覇 ～大窪康之さん～	大窪康之さんは七大陸の最高峰制覇に挑戦中のろう者。大窪さんはこれまでアフリカ最高峰キリマンジャロ（5895メートル）、オーストラリア最高峰コジアスコ（2232メートル）、南極最高峰ビンソンマシフ（4897メートル）の登頂に成功しており、今回南米最高峰のアコンカグア（6960メートル）の登頂に成功した。アコンカグアで直面した困難、そしてチョモランマへの思いを聞く。		
			利用区分：B-3	15分	字幕
56	DA2011-023	ろうを生きる難聴を生きる 「手話で笑いを届けたい」 ～2人で挑んだ創作手話落語～①	手話落語研究会「笑草会」（埼玉県草加市）は結成20年を迎え2月28日に記念公演を行った。代表の飯田勝巳さんはこれまでの集大成ともなる本格的な創作手話落語に挑む。強力な助っ人として台本（ネタ）の作成に取り組むのは、かつて多くのお笑い番組の脚本作りを手がけた中途失聴者の宮田和実さん。 聞こえない人による、聞こえない人のための本格的創作落語にかける2人の姿を追う。		
			利用区分：B-3	15分	字幕
	DA2011-024	ろうを生きる難聴を生きる 「手話で笑いを届けたい」 ～2人で挑んだ創作手話落語～②	手話落語研究会「笑草会」（埼玉県草加市）が開催した、20周年記念公演のダイジェスト。宮田和実さんの作った創作落語「聾訪（ろうほう）」を、「笑草会」代表の飯田勝巳さんが演じる。		
			利用区分：B-3	15分	字幕
57	DA2011-025	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえる人とのかけ橋に	2010年3月、新潟市で「しゅわる映画祭」が開かれた。聞こえない人も聞こえる人もともに同じ映画を楽しんでもらい、手話に関心を持ち手話を使う（しゅわる）人を増やすことを目的にした映画祭だ。 映画祭を企画したのは、手話の普及をめざして活動する団体・手話レクチャー「ハンズ」。代表の小池卓さんが映画祭の運営委員長を務める。「聞こえない人と聞こえる人のかけ橋になりたい」と願う小池さんに、その思いを伺う。		
			利用区分：B-3	15分	字幕
	DA2011-026	ろうを生きる難聴を生きる 必要な人に必要なサービスを ～障がい者制度改革推進会議～	総理大臣を本部長として設置された「障がい者制度改革推進本部」の下部組織、「障がい者制度改革推進会議」が、2010年1月からスタートした。障害のある当事者や有識者が参加して、障害者基本法の改正や、あらたな総合福祉法（仮称）の制定などに向けて議論を進めている。会議の構成員の1人、全難聴常務理事の新谷友良さんに、障がい者制度改革推進会議における議論について解説していただく。		
			利用区分：B-3	15分	字幕

58	DA2011-027	ろうを生きる難聴を生きる “盲ろう者”生きる意欲につながる支援	2009年5月、盲ろう者の自立や社会参加の支援を目的に、東京都盲ろう者支援センターが開設された。東京都の補助を受けてNPO法人東京盲ろう者友の会が運営するもので、全国初めての取り組みだ。センターでは、料理、スピーチ、ウオーキングなどを通して、家に閉じこもりがちな人たちの社会参加を促進する事業を実施している。開設1年の東京都盲ろう者支援センターの取り組みを通して、盲ろう者を支援するサービスのありかたを考える。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2011-028	ろうを生きる難聴を生きる 電話リレーサービス普及のために	電話リレーサービスは、聞こえない人と聞こえる人がリアルタイムで会話することを可能にするサービス。聞こえない人は、パソコン上で文字を打ったり、テレビ電話で手話で話す。それを見たオペレーターが、聞こえる人に電話をして内容を音声で伝える。逆に聞こえる人の音声は、オペレーターが文字や手話で伝える。 電話リレーサービスの便利さを紹介しながら、普及させるための道筋を考える。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2011-029	ろうを生きる難聴を生きる 発達障害をあわせ持つ子への支援	ろう学校に通う子どもの「発達障害」が注目されはじめた。補聴器が進歩したり手話が積極的に活用されても、「ことばの学習に困難がある」「集中が続かない」「人の気持ちを推測できない」といった特性を持つ子どもたちがいることが、わかってきたのだ。 そんな中、東京学芸大学准教授の濱田豊彦さんが実施する「学習支援ダンボ」の取り組みが注目されている。発達障害をあわせ持つ子どもの教育支援の研究と実践についてリポートする。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
59	DA2011-030	ろうを生きる難聴を生きる 情報・コミュニケーションを保障する制度改革を	障害者にかかわる制度の抜本的な改革をめざして議論が続く、内閣府の障がい者制度改革推進会議。重要なテーマのひとつが「情報・コミュニケーション保障」だ。日本が批准をめざす障害者権利条約をふまえた新しい法制度を、障害者自身が提案、実現しようとしている。 情報・コミュニケーション保障を実現する制度改革についての、全日本ろうあ連盟の考え方を聞く。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2011-031	ろうを生きる難聴を生きる 日本ろう者劇団　30年の軌跡	ろう者演劇をけん引し続けてきた「日本ろう者劇団」は、今年、誕生して30周年を迎えた。 1980年4月、演劇の好きなろう者が集まり「東京ろう演劇サークル」を設立。その後、トット基金の付帯劇団となり、日本ろう者劇団と改称し、発展してきた。 日本ろう者劇団は、どのような足跡を残してきたのか、これから何を始めようとしているのか、過去の公演の映像を交えながら、劇団の米内山明宏さんと井崎哲也さんに聞く。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
60	DA2011-032	ろうを生きる難聴を生きる ソーシャルワークを普及させよう	聴覚障害のある人の生活の質を高めるために注目され始めたのが、専門家によるソーシャルワークだ。本人が抱える問題を整理し、使える制度を利用し周囲にも働きかけて、本人が職場や地域で力を発揮しやすいようにする。東京聴覚障害者自立支援センターの相談支援員の矢野耕二さんは、聴覚障害者が働く職場に出かけて障害者が働きやすい職場を作ったり、ろう学校に出かけて生徒の相談に乗ったりしている。 ソーシャルワークの実際を紹介しながら、ソーシャルワークの重要性や普及への道筋、課題について聞く。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2011-033	ろうを生きる難聴を生きる ピアノが好き！　～調樹里杏さん～	聞こえなくても、ピアノを弾くのが楽しくてしかたがない！そう語るのは、神奈川県に住む調樹里杏（しらべ　じゅりあ）さん。仕事や子育てと格闘しながら、毎日、自宅のピアノに向かう。調さんがピアノを弾く楽しみは、響き。聞く人に感動してもらえる演奏をしたいと、自分では確認しづらいことをピアノの先生に教えてもらいながら、練習に取り組んでいる。大好きなピアノに一生懸命に向き合う調樹里杏さんを追う。		
			利用区分:B-3	15分	字幕

61	DA2011-034	ろうを生きる難聴を生きる お便りにこたえて	番組に寄せられたお便りをもとに、3つの話題を取り上げる。 (1)読話学習会…東京都八王子市が開催している読話学習会の様子を紹介する。 (2)ろう女性史講演会…大槻芳子さんを講師に迎えて開催された、「ろう女性史講演会」の様子を紹介する。 (3)人工内耳の聞こえ…虎の門病院(東京都港区)耳鼻咽喉科の医師と患者さんの話を紹介する。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
62	DA2011-035	ろうを生きる難聴を生きる いつも前向きに　～大槻芳子さん～	大槻さんは、1942年、新潟県に生まれ、7歳で失聴した。大槻さんの名前が広く知られるようになったきっかけは、手話の魅力を多くの人に知ってもらおうと、40代になって始めた手話パフォーマンスと講演のステージ活動だ。さらに50歳を過ぎてからは、全日本ろうあ連盟本部事務所長として活躍した。70歳近くになった今も前向きな生き方は変わっていない。 番組では、ろう女性史編さんプロジェクト代表の長野留美子さんが、大槻さんの生き方を聞く。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2011-036	ろうを生きる難聴を生きる ユニバーサルデザインを考える	東京国際空港の新ターミナルをユニバーサルデザインとするため、東京国際空港ターミナル株式会社は2年3か月をかけて障害のある当事者や専門家をUD委員に任命し、検討を続けてきた。議論したテーマは、トイレ、サイン、地図、エレベーター、人的対応など多岐にわたる。番組では、UD委員会による新ターミナルの模擬利用の模様を紹介しながら、ユニバーサルデザインの成果と課題を伝える。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
63	DA2011-037	発見！人間力　其の94　盲目の演歌歌手　笑顔の秘密	全盲の演歌歌手、清水博正さんは平成2年生まれの青年。魂の歌と言われる彼の熱唱を聴いた人々はみな、その歌声から勇気をもらうという。 聴く人だれもが笑顔になるという不思議な歌声の秘密とは。そして、その人間力はどこから生まれるのか。		
			利用区分:B-3	26分	字幕
64	DA2011-041	カンブリア宮殿　障害者に働く喜びを日本理化学工業会長 大山泰弘	不況にあえぐ中小企業にあって、社員の幸せを考え続けている会社がある。神奈川県川崎市にある「日本理化学工業」だ。この会社の従業員は74人のうち54人が知的障害者だ。しかも重度の人が半数以上を占めている。障害者の雇用を積極的に進める企業の中でも、草分け的な会社だ。 日本理化学工業の50年の歩みと障害者雇用の現実と問題点をあぶりだしていく。 【字幕制作:群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザ】		
			利用区分:B-3	44分	字幕
65	DA2011-042	目撃者f　絵里せんせいとスーパーダンスキッズ	最近、子どもたちの間でもヒップホップやストリート系ダンスが大人気で、キッズダンスの全国大会開催など、キッズダンス界はこれまでにない盛り上がりを見せている。 福岡市南区にも全国で注目を集めるダンスチームがある。小学生ダンサー日本一を決める大会で前年全国3位。今回は優勝を目指すチーム「絵里ダンス」だ。子どもたちを指導するのは、西畑絵里さん。西畑さんは生まれながらにして重度の難聴という障害をもちながら、高校、大学時代に何度も日本一に輝いた実績がある。その努力は並大抵のものではない。 「ダンスの前にまず礼儀」という西畑さんの指導はとても厳しい。「できるかできないかでなく、やるかやらないかよ！」としったする西畑さんに子どもたちは泣きながら必死の思いで付いていく。 さて、今大会の結果は…。 【字幕制作:福岡県聴覚障害者センター】		
			利用区分:B-3	26分	字幕

66	DA2012-001	ハートをつなごう きょうだい～障害のある人の兄弟姉妹～（1） 抱えてきた“生きづらさ”	「子ども時代に親に甘えられなかった」「大人になっても、自分のために人生を生きられない」… 障害のある人や、難病などで長期闘病している人の兄弟姉妹は、「きょうだい」あるいは「きょうだい児」と呼ばれ、成長の過程で悩みや葛藤を抱く人が多いといわれています。 しかし、家族支援の必要性が指摘されるようになっても、「きょうだい」は、なかなか支援の対象として捉えられてきませんでした。 「自分が悩んでいることで、親を悲しませたくない」、「周囲の人に話せば、自分が悪い人間だと思われるのではないか」…一人で苦しんでいる若者が、数多くいるのではないかといわれています。 （1）では、「きょうだい」がどんなことに苦しんできたのかを当事者のみなさんとともに考えていきます。（NHKHP参照） ソニン/石田衣良		
			利用区分：A-3	29分	字幕
67	DA2012-002	ハートをつなごう きょうだい～障害のある人の兄弟姉妹～（2） “自分を生きる”ために	「子ども時代に親に甘えられなかった」「大人になっても、自分のために人生を生きられない」… 障害のある人や、難病などで長期闘病している人の兄弟姉妹は、「きょうだい」あるいは「きょうだい児」と呼ばれ、成長の過程で悩みや葛藤を抱く人が多いといわれています。 しかし、家族支援の必要性が指摘されるようになっても、「きょうだい」は、なかなか支援の対象として捉えられてきませんでした。 「自分が悩んでいることで、親を悲しませたくない」、「周囲の人に話せば、自分が悪い人間だと思われるのではないか」…一人で苦しんでいる若者が、数多くいるのではないかといわれています。 （2）では、「きょうだい」が、成長の過程で抱えるさまざまな課題を、どうやって乗り越えていけばいいのかを当事者のみなさんとともに考えていきます。（NHKHP参照） ソニン/石田衣良		
			利用区分：A-3	29分	字幕
68	DA2012-003	ハートをつなごう NHK障害福祉賞（1）私の家族	「NHK障害福祉賞」は、障害者自身の体験や、障害児・者の教育や福祉の分野での実践記録などに贈られる賞。 この「NHK障害福祉賞」最優秀賞を受賞した徳澤麻希さん。夫の勝也さんが交通事故で車いすの生活になり、麻希さんは、勝也さんの介助とふたりの子どもの子育てに奮闘。夫の勝也さんは障害を抱えながら、子育てにどう関わったらいいのか悩んできた。困難に遭いながらも前向きに生きようとする一家の姿をご紹介しながら、作品にこめられた思いを伺う。 ソニン/石田衣良		
			利用区分：A-3	29分	字幕
69	DA2012-008	ろうを生きる難聴を生きる 人工内耳・270人の親の声 ～全国早期支援協議会アンケートから～	内耳に電極を入れることで、聴力の回復をはかる人工内耳。1994年に保険が適用となってからは手術を受ける人が増え、また手術時の平均年齢は2009年には3歳代となった。多くのケースでは、手術を行うか否かは親が判断している現状だ。番組では聴覚障害児を持つ親を対象に行われたアンケートから、人工内耳に対する親の気持ちを紹介。また人工内耳を装着しながらも、手話の世界に生きがいを見いだした聴覚障害者の姿も紹介する。		
			利用区分：B-3	15分	字幕
	DA2012-009	ろうを生きる難聴を生きる 検証・韓国手話 ～似ている？似ていない？その実像に迫る～	日本でも学ぶ人が増えている韓国手話。北星学園大学の佐々木大介さんは、言語学の立場から両者を比較研究している。かつて日本が韓国を植民地化していた歴史的背景もあり、韓国手話と日本手話は非常に似ていると言われるが、最近ではその状態に変化が起きているという。韓国手話を取り巻く現状を見ていく。		
			利用区分：B-3	15分	字幕
	DA2012-010	ろうを生きる難聴を生きる 自分自身への挑戦 ～ライダー高杉奈緒子　日本最高峰レースに挑む～	高杉奈緒子さんは難聴者。23歳の時からライダーとして走り続けている。日本最高峰のオートバイレース「全日本ロードレース選手権」にも参戦中だ。「自分自身の限界に挑戦したい」という高杉さんのレースにかける思いを追った。		
			利用区分：B-3	15分	字幕

70	DA2012-011	ろうを生きる難聴を生きる ろう教授奮闘記　～松﨑丈さん～	宮城教育大学准教授の松﨑丈さんはろう者。ろう学校の教員を目指す学生たちを指導している。小学校から高校まで普通校で過ごした松﨑さんは大学で手話と出会い、現在は手話を使って講義を行う。手話通訳はつけず、学生たちは手話を学びながら松﨑さんとコミュニケーションしている。ろう教育を担う学生に期待する思いを、松﨑さんに語っていただく。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-012	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえない大学生への支援 ～生き生きと学ぶために～	現在、大学に進学している聴覚障害学生は1500人ほどおり、その数が増える中、大学での情報保障の整備が急がれている。番組では「日本聴覚障害学生高等教育シンポジウム」の様子を紹介しながら、一部の大学で行われている先駆的な試みを見ていく。お話は筑波技術大学障害者高等教育研究支援センターの白澤麻弓さん。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
71	DA2012-013	ろうを生きる難聴を生きる ぬくもりを伝えたい ～会津塗り職人・星清一さん～	星清一さんはろうの会津塗り職人。父のあとをついでろう学校卒業後この世界に入って約30年となる。星さんの心の支えは「師匠」でもある父、そして作業を共にするようになった同じ聞こえない妻の存在。一家で伝統工芸を守る姿を紹介する。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-014	ろうを生きる難聴を生きる “コーダ”を見つめて　～澁谷智子さん～	コーダとは聞こえない親を持つ聞こえる子どもたちのこと。コーダは「ろう文化」と「聴文化」という価値観の違う2つの世界を知る。 コーダの子育てや親子関係に注目し研究している澁谷智子さんは、コーダ理解のための活動を続けている。澁谷さんにお話を伺う。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
72	DA2012-015	ろうを生きる難聴を生きる ろう者の思いを伝えたい ～映像ドキュメンタリー作家・今村彩子さん～	今村彩子さんはろうの映像ドキュメンタリー作家。「ユニバーシティライフ～ろう・難聴学生の素顔～」が文部科学省選定作品となるなどいくつかの受賞体験もした。また「伝えたい」が日本民間放送連盟賞CM部門で優秀賞を受賞した。この作品は静岡県内のサーフショップ店長（ろう者）が、店を訪れる健聴者と筆談でコミュニケーションする姿を通して「伝える方法はいろいろある。大切なのは伝えたいという気持ち」というメッセージを送るものである。今村さんの思いを伺う。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-016	ろうを生きる難聴を生きる つかめ！聞こえない人々のニーズ　～しゅわ旅ツアー～	片桐幸一さんは旅行代理店で働くろう者。ほかのスタッフとともに聴覚障害者のほか、さまざまな障害のある人を対象にした旅行を企画している。当事者たちはどのようなサービスを求めているのか片桐さんの体験を通して考える。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
73	DA2012-017	ろうを生きる難聴を生きる 島の手作りネットワーク ～隠岐に暮らす聞こえる人とろう者たち～	池田文隆さん、宮子さんは島根県隠岐島に暮らす健聴者とろうの夫婦。島に15人ほどいるろう者の大半は1人暮らしの高齢者である。島では公的な手話通訳派遣制度が事実上ほとんど機能していない。松江市に派遣を依頼すると1日1便だけのフェリーで片道3時間かけて通訳が来ることになる。日帰りは困難なため、依頼は島の手話サークル代表を務める文隆さんに舞い込む。池田さんの取り組みを紹介する。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-018	ろうを生きる難聴を生きる “盲ろう者”を知っていますか？	渡井真奈さんは、夫が盲ろう者で、5年前から、小学校や幼稚園で、盲ろう者について知ってもらうための授業を企画・運営している。授業には、実際に盲ろう者を講師に招き、点字や手話についてのクイズ、子どもたちに実際に盲ろう者の手引きをしてもらう。「盲ろう者についてもっと知って欲しい」と活動する真奈さんの思いを紹介する。		
			利用区分:B-3	15分	字幕

74	DA2012-019	ろうを生きる難聴を生きる 島のろう者は今	島根県・隠岐は4つの島からなり、約2万人の人々が暮らす。ここには手話で生活する人が10人ほどいる。離島では手話通訳の派遣が難しい場合も多い。島のろう者たちの暮らしを追った。　池田文隆		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-020	ろうを生きる難聴を生きる 災害関連情報（平成23年3月20日放送）	東日本大震災から9日目の放送。岩手・宮城・福島の各被災地の様子、聴覚障害者の状況を、各地のろうあ協会・難聴者協会や手話通訳者から報告してもらう。また被災地の聴覚障害者から番組に寄せられたメールを紹介し、被災者の生の声を伝える。　斉藤千英		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-021	ろうを生きる難聴を生きる この一年を振り返って ～ハイライトシーンをもう一度！～	1年間の放送を振り返り、さまざまな世界で活躍する4人の聴覚障害者の様子を、ハイライトシーンを交えて紹介する。登場するのは、女性ライダーの高杉奈緒子さん、大学准教授の松﨑丈さん、会津塗りの職人の星清一さん、旅行会社で手話ツアーを企画する片桐幸一さんだ。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
75	DA2012-022	ろうを生きる難聴を生きる 災害関連情報（平成23年4月3日放送）	東日本大震災関連情報。震災から3週間目の様子を伝える。聴覚障害者救援中央本部の取り組みと、岩手県ろうあ協会会長高橋幸子さんの報告。番組後半では、兵庫県立聴覚障害者情報センターの相談員・甲斐更紗さんを迎え、災害時の心理支援について伺う。　甲斐更紗		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-023	ろうを生きる難聴を生きる 災害関連情報（平成23年4月10日放送）	東日本大震災から1か月目の様子を伝える。全難聴対策本部の高岡正さんから、難聴者の被災状況・必要な支援について伺う。後半は精神保健福祉士の高山享太さんを迎え、被災した子どもたちをどう受け止め支援していくのかを伺う。 高岡正／高山享太		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-024	ろうを生きる難聴を生きる あきらめない人生　前編　～藤田孝子さん～	1964年に制作されたNHKのドキュメンタリー「歳月」は、藤田威さん・孝子さんの聞こえない夫婦が、たくましく生きる姿を描いた作品だ。ろう者への差別がまだ厳しかった時代。さまざまな苦労に負けず前向きに生きた孝子さんの「あきらめない人生」を伺う。　藤田孝子／橋爪由利		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-025	ろうを生きる難聴を生きる あきらめない人生　後編　～藤田孝子さん～	藤田孝子さんにお話を伺う後編。夫の威さんは島根県のろうあ連盟の中心的存在として活躍した。夫の生前からろうあ運動にかかわった孝子さんだが、当時は女性が前面に出るのは珍しいことだった。夫の死後、島根県のろうあ連盟の会長も務めた孝子さんに、女性ならではの取り組みについて伺う。　藤田孝子／橋爪由利		
			利用区分:B-3	15分	字幕

76	DA2012-026	ろうを生きる難聴を生きる 人形劇と自分探しの旅　～前編～	「デフ・パペットシアター・ひとみ」は、聞こえない人と聞こえる人が力を合わせて上演する人形劇団。結成30周年記念作品の公演に初挑戦する牧野英玄さんの姿を追う。　牧野英玄		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-027	ろうを生きる難聴を生きる 人形劇と自分探しの旅　～後編～	「デフ・パペットシアター・ひとみ」の牧野さんはろう学校ではなく一般校で学び、聞こえる世界と聞こえない世界のはざまで揺れ動いていた。人形劇を通して、自分探しの旅を続ける牧野さん。初めての公演を通して、「自分とは何者なのか」が少しつかめたという。　牧野英玄		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-028	ろうを生きる難聴を生きる どんぐり　ろう重複障害とともに ～知的障害のある仲間のために～	入所授産施設「ふれあいの里・どんぐり」には60人のメンバーが暮らす。その半数以上が、知的障害のある人たちだ。メンバーは共同生活をする中で、使える手話単語の数を増やしたり、買い物をする力を付けたりして、少しずつ成長している。全国的にも先進的と言われる取り組みを伝える。　速水千穂		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-029	ろうを生きる難聴を生きる どんぐり　ろう重複障害とともに ～さまざまな“生きづらさ”を支えて～	設立当初の「どんぐりの家」のころとは異なり、今、「ふれあいの里・どんぐり」では、精神障害、ひきこもり、盲ろうなど、さまざまな「生きづらさ」のある人の暮らしを支えている。「ふれあいの里・どんぐり」の取り組みを伝える。　速水千穂		
			利用区分:B-3	15分	字幕
77	DA2012-030	ろうを生きる難聴を生きる 制度改革①　必要とする人にサービスを	日本では軽中度難聴の人は障害認定されず、福祉サービスなどを受けることができない。しかし、日常生活で困っていることは、たくさんある。サービスを必要とする人が、サービスを受けられるようにするための道筋を考える。新谷友良		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-031	ろうを生きる難聴を生きる 制度改革②　どこでもいつでもコミュニケーション支援を	現在、手話通訳派遣事業、要約筆記派遣事業、手話通訳設置事業を実施していない市町村があり、内容も地域格差があることが指摘されている。最新の調査結果をもとに、どこでもいつでもコミュニケーション支援が受けられるようにするための道筋を考える。　松本正志		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-032	ろうを生きる難聴を生きる 大好きな犬と仲間と ～びわこみみの里の就労支援～	滋賀県守山市にある「びわこみみの里」は、一般企業への就労が難しい聴覚障害者などが、就労訓練を受けたり働いたりする施設。中でもユニークなのは犬の美容師であるトリマーの養成。トリマーを目指す人たちを中心に、みみの里を紹介する。		
			利用区分:B-3	15分	字幕

78	DA2012-033	ろうを生きる難聴を生きる これからのろう教育 ～第59回全国ろうあ者大会から～	聴覚に障害があっても地域の学校に通う子どもが増える中、ろう学校はどんな役割を果たすのか、ろう学校を魅力的なものにするためには何が課題なのか。ろうあ者大会の様子を紹介しながら、ろう教育の今後について考える。 西滝憲彦		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-034	ろうを生きる難聴を生きる 竹の美を極める ～竹工芸作家　杉田静山さん～　前編	ろうの竹工芸作家、杉田静山(じょうざん)さん。滋賀県指定無形文化財保持者で、その作品はこれまでも高く評価されてきた。2回にわたり、静山さんが創る美の世界と人生について聞く。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-035	ろうを生きる難聴を生きる 竹の美を極める ～竹工芸作家　杉田静山さん～　後編	80歳を目前にした今も作品を作り続けている杉田さん。後編は、高い評価を得たロンドンでの展示と実演について伺う。また、これまで制作をずっと支え続けてきた家族についても伺う。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
79	DA2012-036	ろうを生きる難聴を生きる 東日本大震災　盲ろう者は	岩手県大槌町に住む八幡美知子さん(60歳)は、息子夫婦と孫と6人で暮らしている。震災で家は無事だったが、14年前から八幡さんを支えてくれた通訳・介助者が、津波で行方不明になってしまった。大槌町には、ほかに通訳・介助者はいない。 震災の中での盲ろう者の生活の現状を伝える。 八幡美知子／笠井実		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-037	ろうを生きる難聴を生きる 東日本大震災　放射能の不安	ろう者は、放射能や放射能の影響を減らすための注意点について、手話を通して情報を得る機会が少ない。そこで、東日本大震災聴覚障害者救援福島県本部では、手話通訳を付けた専門家の講演会を開いた。放射能汚染と向き合うろう者と、それを支援する動きを伝える。　小林靖		
			利用区分:B-3	15分	字幕
80	DA2012-038	ろうを生きる難聴を生きる 災害時の緊急情報をどう伝えるか	東日本大震災では、聴覚障害者の防災や被災者支援において、さまざまな課題が浮き彫りになった。特に情報配信は重要な課題である。 災害発生時に確実に情報が届くようにするには、どんなシステムを用意しておくことが必要なのか考える。　小川光彦		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2012-039	ろうを生きる難聴を生きる 災害と聴覚障害者情報提供施設	東日本大震災で、情報提供施設は地元の聴覚障害者団体と協力し、安否確認や被災者支援活動を行った。災害時に重要な役割を担う情報提供施設のない地域では、一日も早い施設設置を望む声が高くなっている。 災害時の情報提供施設の役割について伝える。　　保住進		
			利用区分:B-3	15分	字幕
81	DA2012-040	東海北陸ヒューマンドキュメンタリー 聴こえない僕が父になる	ろう者の森本拓磨さんは学生時代にひとめぼれした女性と結婚した。そして同時に5歳の翔太郎君の父親になった。耳の聞こえない森本さんが言葉の壁や血のつながりを超え、翔太郎君の父親になろうとする姿を追う。		
			利用区分:B-3	29分	字幕
82	DA2012-041	なんくるないさぁ　耳の日特番 ～今井絵理子が息子と歩んだ6年～	かつてSPEEDのメンバーとして、国民的人気を得た歌手・今井絵理子さん。彼女の一人息子、礼夢くんは耳が聞こえない。「聞こえないことは息子の個性」と言い切る絵里子さんは、礼夢くんを連れて全国のろう学校や施設を回り、コンサートを行っている。自ら手話を学び、息子とコミュニケーションし、そして歌い続ける絵里子さんの姿を追った。		
			利用区分:B-3	45分	字幕

83	DA2012-042	11ドキュメント静岡 伝えたい思い ～言葉を越えたコミュニケーション～	映像作家の今村彩子さんはサーフショップを経営している太田辰郎さんを1年以上取材し、ドキュメンタリー映画を制作している。今村さんも太田さんも耳の聞こえないろう者である。 音のない世界に生きる今村さんの「伝えたい思い」を紹介する。		
			利用区分:B-3	48分	字幕
84	DA2012-043	NNNドキュメント'11　3･11大震災　シリーズ16 手話で伝えた被災地　～心の壁を越えて～	今村彩子さんはろう者の映像作家。東日本大震災の直後から現地入りし、被災したろう者たちの姿を撮り続けてきた。以前は手話のできない聴者とのコミュニケーションにあまり積極的ではなかったという今村さん。しかし、あるろう者との出会いで、自分の心の壁に気づく。被災したろう者の復興も、それぞれが心の壁を超えたとき、何かが見えてくるはず。それを信じて、ひたむきに作品づくりに向き合う今村さんの姿を追う。		
			利用区分:B-3	25分	字幕
85	DA2012-044	JNN九州沖縄ドキュメント　ムーブ　手話で生きたい	乗富秀人さんは熊本に住む画家。描くのは、デフアートと呼ばれる「音のない世界の人たちの想いを表現する」絵画だ。口話教育で厳しく育てられた乗富さんは就職してからも、聴者ばかりの社会で孤独感を強めていた。転機となったのは26歳の時に絵の勉強のために向かったパリ。ろう教育発祥の地フランスで、ろうであることに誇りを持って生きる芸術家たちと出会う。今、乗富さんはろう者の誇りを持って、「手話で生きたい」と強く思っている。		
			利用区分:B-3	25分	字幕
86	DA2012-045	架け橋 第1弾　～東日本大震災　宮城の被災ろう者は今～ 第2弾　～東日本大震災　一ヵ月後の被災ろう者～ 第3弾　～東日本大震災　地域の絆～	甚大な被害をもたらした東日本大震災。その時、聞こえない仲間たちは、建物の倒壊した町で、避難所で、何を思いどう過ごしていたのか。ろう者である今村彩子監督が見た被災地とは、そして聞こえない仲間たちとは…。渾身のドキュメンタリー作品。　今村彩子		
			利用区分:A-3	75分	字幕
87	DA2012-046	福祉ネットワーク この人と福祉を語ろう デザインで描く生きる希望～建築家　伊東豊雄さん～	各界の著名人に、その人なりの福祉論を語ってもらう「この人と福祉を語ろう」。今回のゲストは、世界的な建築家の伊東豊雄さん（70歳）。東日本大震災によって暮らしや地域社会が奪われた被災者たち。伊東さんは震災直後から被災地に入り、「建築の力」でコミュニティーの復興再生を支援するために力を注いできた。多くの喪失を経験した被災者の心と生活の復興再生を、どうデザインの力で支援しようとしているのか、話を伺う。（NHKHPより）		
			利用区分:A-3	29分	字幕
88	DA2013-001	アスリートの魂 私はもっと速くなる　車いすマラソン　土田和歌子	「パラリンピック車いすマラソン日本代表、土田和歌子選手。17歳で足の自由を失った後、幾多の苦難においても常に前を向いて走り続け、夏と冬のパラリンピック両方で金メダルを獲得。まだ手にしていないのが、車いすマラソンでの金メダルだ。レース中の事故で大けがを負った北京大会から4年、37歳の肉体は衰えを隠せないが、「最後のチャンス」と臨むロンドンに向けた激闘の日々に密着した。		
			利用区分:A-3	44分	字幕
89	DA2013-002	ハートネットTV　NHKハート展　叱られたとき	障害がある人が作った詩に著名人が絵をつけるアートのコラボレーション「NHKハート展」。今回は入選者の中から、茨城県に住む遠藤真宏さん（19歳）の作品をとりあげる。 真宏さんは知的障害と自閉症がある。小さい時は、自分の感情をコントロールできず、ほとんど人と関わることもできなかった。母親の礼子さんは、幼少から2つのことを心がけて、真宏さんに向き合ってきたという。その2つのこととは…？（NHKHP参照）　遠藤真宏／つちだよしはる		
			利用区分:A-3	29分	字幕

90	DA2013-004	ろうを生きる難聴を生きる 明日へのシュート ～デフバスケットチーム　宮城クローバーズ～前編	愛知県で開かれた全国ろうあ者体育大会に東日本大震災の被災地から参加した、デフバスケットボールチーム「宮城クローバーズ」。メンバーの中には肉親を失った人もいる。被災者の支援に走り回った人もいる。 震災の影響で十分な練習ができなかったメンバーの思いを追う。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-005	ろうを生きる難聴を生きる 明日へのシュート ～デフバスケットチーム　宮城クローバーズ～後編	東日本大震災の被災地の宮城から、全国ろうあ者体育大会参加を決めた「宮城クローバーズ」。しかしメンバーは5人だけ。控え選手もいない人数で大会に参加したクローバーズの戦いぶりを追う。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-006	ろうを生きる難聴を生きる 難聴児教育① 学びやすい学校作り～ある夫婦のとりくみから～	秋田県に住む荒巻晋治さん里美さん夫妻は、長男の修治君（10歳）が秋田市立御所野小学校難聴児学級に入学して以来4年間、難聴児にとって学びやすい学校を目指して活動を重ねてきた。親子の軌跡と現在の学校のとりくみを2回シリーズで送る。 1回目は情報保障に焦点を当てる。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-007	ろうを生きる難聴を生きる 難聴児教育② 子どもはこう感じている～難聴児の“手記から”～	難聴児教育②では、学校生活について書いた修治君の作文を取り上げる。 日々学校で起きたことを、修治君はどう受けとめ、成長していったのか。子ども自身の感じ方から難聴児教育や学校のありかたを考える。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
91	DA2013-008	ろうを生きる難聴を生きる 防災を考える ～全国難聴者・中途失聴者福祉大会inあおもり～	青森市で開催された「第17回全国難聴者・中途失聴者福祉大会」では、さまざまな分科会の中でも、防災について考える分科会への出席者が多かった。 防災を中心に「福祉大会inあおもり」を伝える。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-009	ろうを生きる難聴を生きる 司法手続きにおける配慮を～障害者基本法が求めるもの～	2011年に改正障害者基本法が成立し施行された。その中に新しく盛り込まれた条文の1つが司法手続きにおける配慮である。 ろう者がかかわる裁判や事件の取り調べ等のコミュニケーション保障について考える。　善岡修／田門浩		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-010	ろうを生きる難聴を生きる シリーズ　こころの病　①ストレスと発症	聴覚障害者が精神疾患になった場合、聴覚障害の理解が必要だと言われる。 2回シリーズで、統合失調症のろう者の発症から回復までを例に、聴覚障害者の精神保健について伝える。 1回目は、聴覚障害者にとってのストレス、治療におけるコミュニケーションの大切さに焦点をあてる。　内山久美子／片倉和彦		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-011	ろうを生きる難聴を生きる シリーズ　こころの病　②仲間・生きがいと回復	都内に住む統合失調症のろう者（48歳）は、作業所に通い、弁当の調理の仕事を任されるようになってから、やりがいを感じるようになった。また、精神疾患のある聴覚障害者の仲間と会う場が支えになっている。 こころの病シリーズの2回目は、生きがいになる目標を作ることや、仲間作りの大切さに焦点をあてる。 内山久美子／筒井優子／森せい子		
			利用区分:B-3	15分	字幕

92	DA2013-012	ろうを生きる難聴を生きる 闘う人生　大矢暹さん　①差別をなくすために	大矢暹さんは「淡路ふくろうの郷」で施設長を務めている。ふくろうの郷には聞こえないお年寄りが多く暮らしている。 いつも穏やかな笑顔でお年寄りと接する大矢さんの人生は、まさに闘いの連続だった。 大矢さんの闘う人生を2回シリーズで送る。　村松裕子／大矢暹		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-013	ろうを生きる難聴を生きる 闘う人生　大矢暹さん　②聞こえない高齢者のために	ろう学校時代、教師たちの差別や偏見と闘った大矢暹さんは、卒業後は社会の中のさまざまな壁に立ち向かった。 大矢暹さんの闘う人生シリーズ2回目は、聞こえない高齢者が暮らしやすい社会にしようと活動した思いを伺う。 村松裕子／大矢暹／大矢小百合		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-014	ろうを生きる難聴を生きる 日々是修業　表具師　中河吉由樹さん	表具師の中河吉由樹（なかがわよしゆき）さんは中途失聴のために、目指していた表具師の道を一時はあきらめた。だが復職を可能にしたのは人工内耳だった。表具師という仕事を「人生でこれほど打ち込めたものはない」と言い切る中河さん。表具の技を磨き続ける中河さんの日々を追う。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-015	ろうを生きる難聴を生きる イグ・ノーベル賞と聴覚障害者 ～わさび臭火災警報装置～	イグノーベル賞とは、人を笑わせ考えさせる独創的な研究に贈られる賞だ。化学賞を受賞した日本人のグループが開発したのは、「わさびのにおいで火災を知らせる警報装置」。装置の開発には、多くの聴覚障害者が協力した。 善岡修／松森果林		
			利用区分:B-3	15分	字幕
93	DA2013-016	ろうを生きる難聴を生きる 手話の権利を確立させよう 「手話言語法」制定運動	2011年7月「改正障害者基本法」が成立し、日本で初めて「手話は言語である」ということが認められた。手話の権利をさらに確かなものにしようと、全日本ろうあ連盟が進めているのが、「手話言語法（仮称）制定推進事業」。手話言語法はどんな権利の確立を目指しているのか。ろうあ連盟の西滝憲彦さんに伺う。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-017	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえる子を育てる親へ　～「コーダ」からのメッセージ～	聞こえない親から生まれた子どもをコーダと呼ぶ。聞こえない親は、コーダの子育てに迷いを持つことがあるという。そんな親たちを支援するため、聴力障害者情報文化センターがDVDをつくった。乳幼児期や学齢期の子育てについてわかりやすく解説している。DVDに解説者として登場する金沢大学の武居渡さんと声優の佐田明さんの2人のコーダが、コーダの子育てについて語り合う。　武居渡／佐田明		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-018	ろうを生きる難聴を生きる シリーズ　若者が見たアメリカ① 前向きな生き方　～西川愛理さん～	手話で学べる大学「ギャローデット大学」。アメリカでは、大学で専門的なことを学ぶ若い難聴者やろう者が増えている。難聴者の西川愛理さんも、自分の難聴について学びたいと、アメリカの大学でオーディオロジーを学んだ。 海外の仲間と触れあう中で、難聴者として生きることに自信を持ったという西川さん。彼女を変えたきっかけについて伺う。　西川愛理		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-019	ろうを生きる難聴を生きる シリーズ　若者が見たアメリカ② 聞こえない人への相談支援～高山亨太さん～	精神保健福祉士であり、社会福祉士でもある高山亨太さんは、3年間ギャローデット大学で、聞こえない人のソーシャルワークについて学んだ。現在は、聴覚障害のある子どもたちの相談にあたっている。高山さんがアメリカでみた聴覚障害者への専門的な支援について伺う。　高山亨太		
			利用区分:B-3	15分	字幕

94	DA2013-020	ろうを生きる難聴を生きる 手話通訳制度を考える	聴覚障害者の暮らしに欠かせない手話通訳。去年、高松市で手話通訳の派遣を市が認めない例が起きた。ろう者の母親が、娘が進学を希望する専門学校の説明会への通訳派遣を依頼したが、市に断られたのだ。母親は裁判を起こすことにした。手話通訳制度の何が問題なのか、どう変えるべきなのかを考える。　内山久美子／木下武徳		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-021	ろうを生きる難聴を生きる 世界ろう者卓球選手権まで2か月(1) つかめ金メダル！-上田萌さん-	東京富士大学・卓球部の上田萌さんは、第2回世界ろう者卓球選手権大会に出場する。第1回大会は銅メダル、デフリンピックでは決勝まで進んだが、惜しくも金メダルを逃した。今度こそ世界の頂点を目指す上田選手の挑戦を追う。　上田萌		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-022	ろうを生きる難聴を生きる 世界ろう者卓球選手権まで2か月(2) 夫婦で挑む-有馬歓生さん・千寿子さん-	東京で開かれる第2回世界ろう者卓球選手権大会。その強化合宿に夫婦で参加した有馬歓生・千寿子夫妻。第1回大会では千寿子さんが4位、歓生さんは32位だった。認め合い支え合って世界に挑む夫婦の日常を追った。有馬歓生／有馬千寿子		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-023	ろうを生きる難聴を生きる 防災・減災のために	聴覚障害のある人の命を災害から守るためには、警報や避難指示を確実に伝えることが必要だ。自治体が緊急情報を出す時は、音声だけでなく文字などの視覚情報でも出さなくてはならない。同時に、1人1人の日ごろの備えも大切だ。情報をどのように得るのか、何を持ち歩くか。聴覚障害者の防災・減災に役立つモノやサービスを紹介する。村田哲彦／小川光彦／中園秀喜		
			利用区分:B-3	15分	字幕
95	DA2013-024	ろうを生きる難聴を生きる 検証　障害者自立支援法改正案	「障害者自立支援法改正案」は、名前を「障害者総合支援法」とあらため、これまで福祉サービスを受けられなかった難病の患者もサービスの対象に広げるなどとしている。 しかし、この法案に対しては、障害者自立支援法に代わる福祉制度について話し合ってきた「障がい者制度改革推進会議」の総合福祉部会の骨格提言とかけはなれている、などとする批判がある。 聴覚障害者団体からの出演者とともに、改正案を検討する。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-025	ろうを生きる難聴を生きる いつか宇宙へ　～JAXA開発員　長谷川晃子さん～	2010年、地球に帰還した、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の探査機「はやぶさ」。その「はやぶさ」の帰還作業にかかわった長谷川晃子さんは、聴覚障害のある女性職員だ。 子どものころから天文台に行くことが好きだった。いつか宇宙へ行くことを夢見て、「宇宙からの第一声は手話で伝えたい」と語る長谷川さんに、JAXAでの仕事の内容と、宇宙への思いを聞く。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-026	ろうを生きる難聴を生きる 早瀬憲太郎に聞く①　ろう児のために	「NHKみんなの手話」講師の早瀬憲太郎さんは、ろうの子どもたちに日本語の力を身につけてもらおうと、ろう児向けの塾の活動をしている。ろう児が自分の夢を実現するときに、日本語の読み書きの力が必要になると思うからだ。ろう児のためにできることは何かと考え続ける早瀬さんにお話しを伺う。2回連続シリーズの1回目。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-027	ろうを生きる難聴を生きる 早瀬憲太郎に聞く②　先輩の生きざまを伝えたい	2009年、早瀬さんが監督した映画「ゆずり葉」が公開された。全日本ろうあ連盟の創立60周年を記念して制作されたこの映画は、「ろう児たちにろうあ運動の歴史をわかりやすく伝えたい」という早瀬さんの発案からスタートした。 早瀬さんに、聞こえるスタッフに囲まれて奮闘した撮影時のエピソードや、それぞれのシーンに込められた思いなどを伺う。2回連続シリーズの2回目。		
			利用区分:B-3	15分	字幕

96	DA2013-035	ろうを生きる難聴を生きる 第60回全国ろうあ者大会　in Kyoto① ～運動の歴史～	6月6日から10日まで、京都で「第60回全国ろうあ者大会」が開かれた。 1回目は、「運動」研究分科会に焦点を当てる。連盟副理事長の松本晶行さんが、本人に無断で不妊手術が行われるなど人権が無視されていた時代のことや、そうした状況を差別ととらえて立ち上がった若者のことなどを語った。ほかに、参加者のインタビューなど。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-036	ろうを生きる難聴を生きる 第60回全国ろうあ者大会　in Kyoto② ～制度改革～	京都で開催された「第60回全国ろうあ者大会」。2回目のこの回は、「制度改革」研究分科会に焦点を当てる。分科会で講演した、内閣府の障がい者制度改革推進会議担当室の東俊裕室長は、「福祉法の充実と並んで差別禁止法の制定が必要」と語る。ほかに、さまざまな展示や式典を紹介。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-037	ろうを生きる難聴を生きる 学校訪問・東京都立大塚ろう学校(1)ことばを育む	聞こえない子どもの教育はどのように行われているか、ひとつの例として、東京都立大塚ろう学校の取り組みを紹介する。 大塚ろう学校には幼稚部と小学部があり、本校と3つの分教室に173人の子供が通う。幼稚部では、手話を覚えるとともに、指文字を通して日本語を学んでいく。また、小学部では、手話を使って教科書を理解しながら、算数・国語・理科・社会を学ぶ。 ことばを育む授業を中心に取り組みを伝える。2回連続シリーズの1回目。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
	DA2013-038	ろうを生きる難聴を生きる 学校訪問・東京都立大塚ろう学校(2)人と関わる時間を	前回に引き続き、東京都立大塚ろう学校のとりくみを紹介する。2回目は、聴覚障害のある子どもに社会性や「人と関わる力」を身につけてもらう取り組みについて。 幼稚部になると、友だちとの関係が成長に重要な意味を持つようになる。聞こえない子どもたちは手話でけんかをし、相手の気持ちを手話で理解して仲直りしていく。 「大塚クラブ」というNPO法人の活動では、校内校外から聞こえない子どもが参加し、ろうの大人や地域の人とともに、さまざまな集団活動を行う。授業とは異なる場で、子どもたちは、人との関わり方を学んでいく。		
			利用区分:B-3	15分	字幕
97	DA2013-043	福祉ネットワーク シリーズ　いま、“言葉”を力に① ろう重複障害者を支える	人は言葉によって、人とコミュニケーションを取る。ろう重複障害を持つ方は、それが困難なために、孤立したり引きこもるケースが多いと言われる。 どのような取り組みが求められているのか、支援を行う名古屋の施設を取材した。		
			利用区分:B-3	29分	字幕
98	DA2013-044	福祉ネットワーク シリーズ　福祉用具の事故をどう防ぐ	障害者や高齢者をサポートする福祉用具。しかし、その利用中の事故が多発している。 生活の助けとなる福祉用具で、なぜ事故が起きるのか。安全に活用するために何が必要なのか。具体的な対応策や事故を防ぐ新たな動きを探る。		
			利用区分:B-3	29分	字幕
99	DA2013-045	ハートネットTV 福マガ　7月号　街コン潜入！ 若者の結婚　大人気！手話ダンスグループ	1000人あたりの結婚の数が、明治時代から調べて最低の数値というデータがある。つまり結婚の割合が減っているのだ。若者の結婚に対する意識を徹底調査する。 他に、手話を取り入れたパフォーマンスグループの紹介、さらに被災地に住む障害者の実態調査や性同一性障害の人をめぐる新たな動きを紹介する。		
			利用区分:B-3	29分	字幕

100	DA2013-047	由香ちゃんは小さな通訳者-ろう唖家族の9年間の記録-	若松由香ちゃん（9歳）は、兄と両親の4人家族。両親は耳が聞こえないろうあ者だ。由香ちゃんは今日も小さな手を動かして、両親のために一生懸命通訳をする。一家4人の心温まる絆を描く、昭和60年代のろう者の生活を記録したドキュメンタリー。		
			利用区分：B-3	46分	字幕
101	DA2013-048	ハートネットTV みつえとゆういち　-親子で紡ぐ“認知症”漫画-	日本の認知症高齢者は300万人を超え、今多くの人たちがさまざまな困難に直面しながら家族の介護に格闘している。認知症とどう向き合えばよいのだろうか。記憶を失いながら生きるとはどういうことなのだろうか。番組では、自身も認知症の介護の経験がある作家の田口ランディさんとともに、岡野雄一さんの漫画が問いかけるメッセージをひもときながら、認知症介護のあり方を見つめ直す。（NHKHP参照）　　岡野雄一／田口ランディ		
			利用区分：A-3	29分	字幕
102	DA2016-001	ハートネットTVシリーズ 変わる障害者支援（1） 私のことは私が決める	障害者権利条約の中で注目される理念の1つが自分のことを自分で決める社会の実現である。しかし知的障害者の多くは判断力が不十分であるとして、子どものころから親や周囲に決められた人生を歩む人が多い。誰もが自分で自分のことを決められるための支援について考える。　山田賢治/奥山佳恵		
			利用区分：A-3	29分	字幕
103	DA2016-002	ハートネットTVシリーズ 変わる障害者支援（2） あなたの決断を支えたい	障害者権利条約が採択され、各国が条約の理念の実現に向け取り組んできている中、日本も自分自身で決められる社会を目指すための障害者支援を模索している。障害者の自己決定を支援する活動例を見ながら支援のあり方を考える。　山田賢治/奥山佳恵		
			利用区分：A-3	29分	字幕
104	DA2016-035	目撃！日本列島　心をつなぐ“千本ノック” ～盲目の夫婦の日々～	目の不自由な人たちの野球・グランドソフトボール。選手たちはボールの転がる音を頼りにプレーする。全盲の脇坂清さん（66歳）は、同じく全盲の妻・美津江さんとともに、週1回のノックの練習を26年間続けてきた。盲目の二人がノックに懸ける思いとは何か。脇坂清/脇坂美津江		
			利用区分：A-3	23分	字幕
105	DA2016-036	ハートネットTV エンジンの鍵みつけた～発達障害とのはざまで～	全国から不登校の小中学生が集まる全寮制の学校に、幼いころ発達障害の疑いが強いと診断された少年が入学してきた。彼は同じ境遇の仲間に心を閉ざしていた。しかし、あることがきっかけで彼は仲間に心を開いていく。彼の成長の記録と彼を見守る先生と仲間の2年半に及ぶ記録。　嶋中洋行/加藤優衣人		
			利用区分：A-3	29分	字幕
106	DA2016-037	ハートネットTV 私らしい“自立”～NHK障害福祉賞50年～	NHK障害福祉賞は、50年前に始まった障害のある人や支援者の体験を集めた記録である。この記録は半世紀にわたる日本の福祉の歴史でもある。その中の1つである、27年前に障害福祉賞に入選した脳性まひの女性が、自立とは何かを考え続けた年月を振り返る。　林芳江/山田賢治		
			利用区分：A-3	29分	字幕
107	DA2017-042	ハートネットTV 笑顔のそばに卓球があった ～ろう者卓球日本一　伊藤優希17歳～	広島県立広島南特別支援学校に通う3年生、伊藤優希君は卓球の日本代表に選ばれた。伊藤君は2015年1月に行われた「全日本・全国ろうあ者卓球選手権大会」で史上初の男子シングルス2連覇を達成している。伊藤君が卓球を始めたのは、小学校5年生の時だ。		
			利用区分：B-3	29分	字幕

108	DA2017-043	ハートネットTV 静かでうるさい居酒屋	東京の大久保にある居酒屋「ふさお」はいつもお客さんでいっぱいの人気店。店主自慢の串揚げを片手に盛り上がるお客さんたちだが、よく見ると普通の店と様子が違う。店で飛び交うのは「手話」だ。ろう者の夫婦が営むこの店では手話が「公用語」。ここには憩いを求めてやってくるろう者も、そして手話の魅力にひかれて来る聞こえる人もいる。		
			利用区分:B-3	29分	字幕
109	DA2018-001	ハートネットTVシリーズ 相模原障害者施設殺傷事件 言葉はなくとも　重度知的障害のある人たち	相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で、19人が殺害され27人が負傷した事件が起きた。容疑者は取り調べの中で「意思疎通ができない人たちを刺した」と語った。ネット上でも「知的障害者は怖い」「何を考えているかわからない」などの声が上がった。知的障害者の思いを知ろうと模索する人たちの活動を追う。		
			利用区分:A-3	29分	字幕
110	DA2018-002	ハートネットTVシリーズ 罪を犯した発達障害者の再出発 第1回少年院の現場から	罪を犯した少年たちに立ち直るための教育を行う少年院。罪を犯した少年の中には発達障害や、その疑いがある人もいることが分かった。しかし発達障害は外見では判断しづらく一般の少年と同じ教育が行われてきた。そこで国は発達障害のある少年に対する指導方針を打ち出し配慮ある指導を促した。その成果と課題について考える。　中野淳/藤川洋子		
			利用区分:A-3	29分	字幕
111	DA2018-003	ハートネットTVシリーズ 罪を犯した発達障害者の再出発 第2回出所、そして社会へ	障害への支援や配慮が受けられないため罪を犯してしまう人たちがいる。地域生活定着支援センターは、こうした人たちの再犯を防ぐために活動している。中でも先進的な取り組みをしている長崎県の地域生活定着支援センターの取り組みを紹介する。　藤川洋子/伊豆丸剛史/中野淳		
			利用区分:A-3	29分	字幕
112	DA2018-037	ETV特集　亜由未が教えてくれたこと	NHK青森のディレクター坂川裕野さんの妹・亜由未さんは脳性マヒと知的障害を持つ重度障害者だ。相模原市で起きた障害者殺傷事件をきっかけに、「障害者の家族は不幸ではない」ことを伝えるため、坂川さんは亜由未さんの暮らしを撮影することにする。そして今まで両親に任せていた亜由未さんの介助を1か月間してみることに。両親の苦労、亜由未さんの双子の妹の思い…。重度障害者とともに暮らす家族の姿を描く。　坂川裕野/坂川亜由未		
			利用区分:A-3	60分	字幕
113	DA2018-038	ハートネットTV WEB連動企画“チェノバ” これだけは知ってほしい！聴覚障害の悩み	聴覚障害者といっても、全く聞こえない人から補聴器で少し聞こえる人、生まれつき聞こえない人、途中で聞こえなくなった人などさまざまだ。しかし聴力に違いはあっても、日常生活で不便を感じることに共通点は多い。番組では視聴者から寄せられた意見を紹介しながら、聴覚障害者の抱える悩みについて、ろう者のゲストと共に考えていく。 善岡修/久保純子/荻上チキ		
			利用区分:A-3	29分	字幕
114	DA2019-028	ETV特集 静かで、にぎやかな世界 ～手話で生きるこどもたち～	東京都品川区にある私立明晴学園は、聞こえない・聞こえにくい子どもたちが、手話で学ぶ学校。そこでは授業も休み時間の会話も子どもたちの大事な会議も、すべて手話が飛び交い実ににぎやかだ。番組では、ろう者として手話とともにのびのびと生きる子どもたちの姿と、大学で「聴者の社会」に直面する卒業生の姿を追う。 明晴学園のみなさん		
			利用区分:A-3	59分	字幕
115	DA2019-029	ハートネットTVシリーズ 認知症　当事者とつくる新時代 第1回　絶望から権利へ	2017年4月に京都で開かれた認知症についての世界最大の国際会議。この会議に大きな影響を与えてきたのが、認知症当事者のクリスティーンだ。彼女は当事者として、公の舞台で自分の考えを語り、認知症への見方を変えてきたことで有名だ。そして今、日本でも当事者が声を上げ始めている。 クリスティーン・ブライデン		
			利用区分:A-3	29分	字幕

116	DA2019-030	ハートネットTV　シリーズ 認知症　当事者とつくる新時代 第2回　パートナーと見つけた希望	丹野智文さんは39歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断された。今、認知症への見方を変えようと、各地を飛び回る丹野さんの傍らには、活動を手伝うために常に同行する人がいる。家族でもない、介護者でもない「仲間（パートナー）」。希望を探して歩む丹野さんと仲間たちの記録。 丹野智文／若生栄子／山崎英樹		
			利用区分：A-3	29分	字幕
117	DA2019-031	ハートネットTV　シリーズ “ゲーム障害” LIVE相談 治療と対策	オンラインゲームなどに熱中し生活に支障をきたす症状を「ゲーム障害」という。WHO（世界保健機関）は新たな病気として国際疾病分類に加える見通しだ。当事者や家族の悩み、疑問、体験談を募集し生放送で相談に応える。治療の現場を紹介しながら、対策や予防について考える。 樋口進／遠藤美季／江上敬一／中野淳		
			利用区分：A-3	29分	字幕
118	DA2019-032	ハートネットTV　シリーズ 平成がのこした “宿題” 「災害弱者」	平成の30年間では阪神・淡路大震災、東日本大震災など数多くの災害が起きたが、避難や復興から取り残される高齢者や障害者など「災害弱者」が顕在化した。国は自治体に対して「災害時要援護者の避難支援ガイドライン」を示したが縦割り行政の中では思うように進まない。悲劇を繰り返す社会の課題とその解決の端緒を探る。 福永年久／東俊裕／中野淳		
			利用区分：A-3	29分	字幕
119	DA2020-001	ハートネットTV NHKハート展 手話・ままのめ	障害のある人がつづった詩に、著名人が作品を寄せるNHKハート展。知的障害を伴う自閉症のある岩元優真さん（14）にとって、詩は周囲の人に自分の言葉を伝えられる数少ない機会。二人三脚で奮闘する母との日常を独特の表現で描く。聴覚障害のある駿河富子さん（68）は、幼いころ言葉に傷つき、詩を書く中で自らの人生を取り戻してきた。詩に込められたそれぞれの人生を見つめる。 白鳥久美子／中野淳		
			利用区分：A-3	29分	字幕
120	DA2020-002	ハートネットTV 亜由未が教えてくれたこと　2019	障害者と暮らす家族の本音、共に生きる幸せとは何か。3年前の相模原障害者殺傷事件を機に、重度の障害者の妹・亜由未さんにカメラを向けるNHKディレクターの記録。この夏、2年ぶりに亜由未さんと向き合う兄。妹の症状や環境の変化、介助する親の老いなど、多くの問題を目の当たりにしながら、家族とは何かを模索する。		
			利用区分：A-3	29分	字幕
121	DA2020-028	ハートネットTV 手話で楽しむみんなのテレビ！ ～おはなしのくに編～	ハートネットTVでは、今回「おはなしのくに」2作に手話をつけて放送。渡辺直美さんふんする「きんたろう」と熊の相撲対決は、手話でどう表現されるのか。壇蜜さん出演の「つるのおんがえし」で、鶴の鳴き声や機織りの音はどう手話になるのか。聞こえない人も、聞こえる人もみんなで見てほしい、NHK初の手話エンターテイメント番組。 渡辺直美／壇蜜／馬場博史／山岸侑子／竹村祐樹		
			利用区分：A-3	29分	字幕
122	DA2020-029	ハートネットTV 手話で楽しむみんなのテレビ！ ～ドキュメント72時間編～	「いろんな番組を手話で楽しみたい」という、ろう者・難聴者の声から、NHK初の手話エンターテインメントに「ハートネットTV」が挑戦。今回は、「ドキュメント72時間～海が見える老人ホーム～」に手話をつけて放送。吹石一恵さんのナレーションや、人々の人生が垣間見える一言はどう表現されるのか？シンガーソングライター・松崎ナオさんが歌う72時間テーマ曲「川べりの家」と、手話パフォーマーのコラボレーションも！ 江副悟史／佐沢静枝／寺澤英弥／後藤佑季		
			利用区分：A-3	29分	字幕

123	DA2020-030	ハートネットTV 手話で楽しむみんなのテレビ！ ～昔話法廷編～	NHKの人気番組に手話がつく「手話で楽しむみんなのテレビ！」。今回は、Eテレで話題となったドラマ「昔話法廷」に手話をつけて放送。「さるかに合戦」をモチーフに、カニの親子を殺した猿が法廷で裁かれる。死刑を求めるカニの子ども、涙声で謝罪する猿のセリフを、ろう者たちが手話で表現する。NHK初の手話つきドラマ、果たしてその仕上がりやいかに？手話のできる芸人・河本準一さんをナビゲーターに迎えてお送りする。 河本準一／小林聡美／小澤征悦／今井彰人／數見陽子／ 高島良宏／竹村祐樹		
			利用区分：A-3	29分	字幕
124	DA2020-031	ハートネットTV 手話で楽しむみんなのテレビ！ ～サンドのお風呂いただきます編～	NHKの人気番組に手話がつく「手話で楽しむみんなのテレビ！」。今回は、サンドウィッチマンが各地の家庭風呂をいただきながら人々と触れ合う、湯けむり人情バラエティー「サンドのお風呂いただきます」。会話のテンポが速く、音楽も効果音も盛りだくさん。にぎやかだから面白いバラエティーを、どうやって手話で表現する？？新たな魅力を帯びた「サンドのお風呂いただきます」をお届け！ 砂田アトム／中川恵美／サンドウィッチマン／カミナリ／江副悟史		
			利用区分：A-3	29分	字幕
125	DA2021-001	文字の獲得は 光の獲得でした 作家 柳田邦男が読む　いのちの手記	NHKとNHK厚生文化事業団が主催する「NHK障害福祉賞」には、身体障害や精神障害などと向き合う人たちから半世紀にわたり1万3千以上の手記が寄せられてきた。長年、この賞の選考委員をつとめてきた作家 柳田邦男さんは、それを「人間理解の宝庫」という。そこには苦悩や偏見を乗り越え人生を切り開いてきた人々の真実の言葉がある。番組では柳田さんとともに過去の受賞者4人を訪ねる。人生に立ちはだかる壁を「文字で表現すること」を通して越えてきた人々の体験から、私たちは何をくみとることができるのか。　柳田邦男／夏子		
			利用区分：A-3	49分	字幕
126	DA2021-031	ハートネットTV　＃隣のアライさん「これだけは 知ってほしい！ “統合失調症”のこと」	さまざまなマイノリティーのアライ（味方・理解者）を増やそうと始まった番組「＃隣のアライさん」。第1回は統合失調症の人たちの「これだけは知ってほしい」に迫る。統合失調症の人たちの悩みや関係の作り方について、クイズを通じて理解を深める。　最上もが／荻上チキ／中野淳		
			利用区分：A-3	29分	字幕
127	DA2021-032	ハートネットTV　＃隣のアライさん「これだけは 知ってほしい！ “摂食障害”のこと」	今回は、摂食障害への理解を深め、拒食や過食に悩む人たちの味方になることを目指す、隣のアライさん。 摂食障害の原因は、体重コントロールのためのダイエットであると思われがちだが、単にその行為が問題なだけでなく、その行為の奥にある精神的な問題も大きく関わっている。そのため、摂食障害を乗り越えるためには、周囲のサポートも欠かせない。 正しい知識を持って、アライさんを目指そう。　最上もが／荻上チキ／中野淳		
			利用区分：A-3	29分	字幕
128	DA2021-033	ハートネットTV　＃隣のアライさん「これだけは 知ってほしい！ “てんかん”のこと」	てんかんは100人に1人が発症するといわれる身近な疾患だが、発作の一種である「けいれん」のイメージから、強い偏見や過剰な配慮に悩みを抱えている人が多い。疾患の基礎知識や発作時にはどうすればいいのかなど、てんかんへの理解を深め、アライ（味方・理解者）を目指す。当事者の経験談からどのようなアライが求められているのを考える。　最上もが／荻上チキ／中野淳		
			利用区分：A-3	29分	字幕

129	DA2022-029	ハートネットTV 「困った！どうする？ろう・難聴者のウィズコロナ」 令和2年8月18日	「新しい生活様式」により、暮らしが一変した人たちがいる。耳の聞こえない人たちだ。「マスクにより口の動きが読めずコミュニケーションが取れない」「オンラインの音質が悪く聞こえにくい」など混乱が起きているのだ。一方で「配慮してとお願いしにくい…」と、悩みを抱え込んでしまう人も多い。そこで、当事者だけの座談会を開催。同じ立場だからこそ分かち合える悩みを語り合い「どうすれば良いか」をみんなで考える。 長嶋愛		
			利用区分：A-3	29分	字幕
130	DA2022-030	ハートネットTV ヤングケアラーフォーラム SOSを見逃さないために 令和3年12月22日	家族の介護や世話を担うヤングケアラー。中高生の20人に1人いると推定されています。埼玉県が全国に先駆けて対策に乗り出す中、「自分はヤングケアラーかもしれない」と気づいて声をあげる高校生も！ そこで、「SOSを見逃さないために」と題してフォーラムを開催。元ヤングケアラーや専門家などが一堂に会し、会場参加者に加えリモートでつながった全国の視聴者と共に、本当に必要な支援とは何かについて考えます。 中野淳　／　森田久美子　／　宮崎成悟　／　持田恭子　／　勝呂ちひろ　／　中野綾香　／　藤岡麻里　／　大西咲		
			利用区分：A-3	29分	字幕
131	DA2022-031	目撃！にっぽん 日本一静かで笑顔あふれるカフェ 令和3年2月21日	東京・国立に2020年にオープンしたカフェ。人通りが多い駅前にありにぎわっていても、店に入ってみると驚くほど静か。「いらっしゃいませ」の声もない。それは、聴覚に障害があるスタッフたちが手話で接客しているから。 手話や筆談、時にはジェスチャーも交えて“会話”する。その笑顔あふれる接客に、常連さんも増えている。訪れる人が元気になれるカフェ、そのワケ、見てみませんか？		
			利用区分：A-3	35分	字幕
132	DA2022-032	ハートネットTV 私のリハビリ・介護 「台風かあちゃんの“遠距離介護”柴田理恵」 令和4年4月19日	ふるさとの富山でひとり暮らしをしている母・須美子さんを5年前から遠距離介護してきた俳優の柴田理恵さん。コロナ禍以降、帰省は厳しく制限され、年に1度ほどしか会えない状況に追い込まれた。そんな柴田さん親子を支えてくれたのが地元のつながり。近くに住む親戚やご近所、須美子さんの教員時代の教え子などが、買い物や洗濯、通院や雪かきなどを手伝い、須美子さんの暮らしを支えてくれている。遠隔介護の秘けつをうかがう。 柴田理恵　／　DJ KOO／　中野淳		
			利用区分：A-3	29分	字幕
133	DA2022-033	ハートネットTV 私のリハビリ・介護 「脳動脈瘤（りゅう）からの生還　DJ KOO」 令和4年4月26日	4年あまり前、テレビ番組の企画で人間ドックを受けたDJ KOOさん（60）。脳内に直径1センチ弱の動脈瘤（りゅう）が見つかり、6時間半に及ぶ手術を受けることになった。改めて思い知らされた健康のありがたさ。そして、妻や娘の愛情の深さ。無事手術に成功し、完全復活を果たした今、KOOさんは、ガンの早期発見を促す啓発活動などに積極的に参加している。大病の末につかんだものについてうかがう。 DJ KOO／　柴田理恵　／　中野淳		
			利用区分：A-3	29分	字幕

DC　歴史

	分類番号	タイトル名	内容		
1	DC2007-001	壁を拓く、社会を開くⅡ -昭和50年代のろうあ運動-「民法11条改正運動」 〈手話ビデオ　字幕つき〉	昭和50年代のろうあ運動は「4本柱」運動と呼ばれる権利獲得運動が中心だった。その中の1つ「差別的な民法11条改正運動」について紹介する。内容は、実際に差別にあった聴覚障害者の証言、弁護士の立場から見た改正前の民法11条の問題点、全日本ろうあ連盟の当時の活動などを野澤克哉先生の解説と共に紹介する。野澤克哉／馬屋原亜季／高田英一／山田裕明／黒﨑信幸／黄田規子／土谷道子		
			利用区分:A-3	51分	字幕
2	DC2008-003	壁を拓く、社会を開くⅢ 平成のろうあ運動 〈手話ビデオ　字幕つき〉	平成のろうあ運動の特徴は、それまでの聴覚障害者団体だけの運動と異なり、社会と共に運動する「社会連携型運動」であることが特徴としてあげられる。代表的な2つの運動、「民法969条改正運動」「欠格条項撤廃運動」について紹介する。 旧民法969条や欠格条項が、どのような法律で、どこが問題となるのか。野澤氏や弁護士の田口氏に解説していただく。また、具体的にどのような活動を行ったのか、全日本ろうあ連盟の安藤理事長に当時を振り返りながら説明していただく。　野澤克哉／馬屋原亜季／安藤豊喜／田口哲朗／早瀬久美		
			利用区分:A-3	53分	字幕
3	DC2009-004	壁を拓く、社会を開くⅣ ろう教育の歴史 〈手話ビデオ　字幕つき〉	欠格条項撤廃により、聴覚に障害があっても試験に合格すれば、医師や薬剤師の免許が交付されるようになった。しかし試験を受けることはできても、試験を受けるための教育方法については課題が残る。この作品では教育の中でも「ろう学校教育」に焦点を当て、ろう教育の歴史を伝える。　野沢克哉／浜田豊彦／馬屋原亜季		
			利用区分:A-3	35分	字幕
4	DC2010-001	JNN九州沖縄ドキュメント　ムーヴ 惣ちゃんは戦争に征った ～三世代のシベリアの旅～	終戦直前の昭和20年8月9日、ソ連が日ソ中立条約を破棄して参戦。当時の満州にいた多くの日本兵が捕虜となり、シベリアに抑留され、強制労働に従事させられた。 当時シベリアに抑留された貞刈惣一郎氏が、61年ぶりに長男・孫と一緒にシベリアを訪れ、当時のこと、仲間への思いを語る。		
			利用区分:B-3	25分	字幕
5	DC2010-002	JNN九州沖縄ドキュメント　ムーヴ 蒼天の下で昭和20年・小さな森で起きた悪夢	昭和20年3月。現在の福岡県に位置し、旧日本軍が東洋一と誇った太刀洗飛行場が、アメリカ軍の大空襲を受けた。空襲は飛行場とその関連施設に限定されたものだったが、飛行場以外に投下された一発の爆弾が、不運にも森に避難していた小学生の上に落下、31名の児童が亡くなる大惨事となった。		
			利用区分:B-3	25分	字幕
6	DC2010-003	長崎原爆特集　あの日　僕らの夢が消えた～被爆学校　生徒たちの64年～	長崎県諫早市にある鎮西学院高校は原爆で131人の生徒が亡くなったという悲しい歴史がある。原爆によって生徒たちが抱いていた夢や希望は一瞬で消え去った。生き残った当時の生徒たちは、その後どんな人生を送ったのか見つめる。		
			利用区分:B-3	48分	字幕

7	DC2010-004	少女たちの日記帳　ヒロシマ　昭和20年4月6日～8月6日	昭和20年8月6日朝8時15分、広島県立第一高等女学校の1年生223人は、爆心地から600メートルの所で建物疎開の作業中に被爆し、全員が亡くなった。亡くなった1年生が遺した日記帳には、女学校入学から8月6日までの12歳の少女たちの日常が綴られており、現在、そのうちの10冊が公表されている。 番組では、再現ドラマと生き残った人々の証言を通して、少女たちの120日間の姿を描く。		
			利用区分:B-3	43分	字幕
8	DC2011-001	あの日　昭和20年の記憶　昭和20年8月1日～8月7日	太平洋戦争末期の昭和20年8月1日から8月7日。当時の様子や思い出を著名人に語ってもらうとともに、その日の出来事の新聞記事を紹介する。 古谷三敏／久世光彦／田英夫／平山郁夫／童門冬二／安西篤子		
			利用区分:B-3	50分	字幕
9	DC2011-002	あの日　昭和20年の記憶　昭和20年8月8日～8月14日	太平洋戦争末期の昭和20年8月8日から8月14日。当時の様子や思い出を著名人に語ってもらうとともに、その日の出来事の新聞記事を紹介する。高橋玄洋／美輪明宏／なかにし礼／岡田茉莉子／宝田 明／むのたけじ		
			利用区分:B-3	50分	字幕
10	DC2011-003	あの日　昭和20年の記憶　昭和20年8月15日～8月21日	太平洋戦争末期の昭和20年8月15日から8月21日。当時の様子や思い出を著名人に語ってもらうとともに、その日の出来事の新聞記事を紹介する。妹尾河童／久米明／上坂冬子／杉本苑子／澤地久枝／小田島雄志／塩田丸男		
			利用区分:B-3	50分	字幕
11	DC2011-004	あの日　昭和20年の記憶　昭和20年8月22日～8月28日	太平洋戦争末期の昭和20年8月22日から8月28日。当時の様子や思い出を著名人に語ってもらうとともに、その日の出来事の新聞記事を紹介する。西本幸雄／早坂暁／江尻光一／坂上二郎／栄久庵憲司／水野晴郎／池辺良		
			利用区分:B-3	50分	字幕
12	DC2011-005	NNNドキュメント'10　シリーズ戦争の記憶　いじていめんそーれ　故郷へ進軍した日系米兵	比嘉武二郎さんはハワイで生まれ、16歳まで沖縄で育った日系二世。彼は昭和20年、米軍語学兵として沖縄に上陸した。何としても祖国 沖縄の人を救いたいと、ガマに身を隠す故郷の人々に沖縄のことばで叫び続けた。「いじていめんそーれ」出てきてください、と…。		
			利用区分:B-3	26分	字幕
13	DC2013-001	NHKスペシャル　東京大空襲　583枚の未公開写真	東京都文京区の民家で発見された大量のネガフィルム。それは太平洋戦争末期の東京の空襲被害を撮影した貴重なものだった。軍の許可を得た報道カメラマンによって撮影された写真の数々は、当時は軍の情報統制で世に出ることはなかったのだ。克明に記録された空襲直後の東京の町の様子。写真に写っていた人やその関係者を訪ね、当時のお話を聞く。		
			利用区分:B-3	49分	字幕

14	DC2013-004	歴史秘話ヒストリア　新春激突！織田・徳川・武田　三大決戦 ～長篠の合戦　男たちは何を見た！？～	「エピソード1　信玄と戦いたくない！信長の弱気な接待作戦」ゴージャスな織物400枚に帯を300本に虎の皮にヒョウの皮、オーダメイドの服や帽子。戦国のカリスマ織田信長が武田信玄に贈ったプレゼント。信長にとって戦国最強軍団を率いる信玄は絶対敵にしたくない相手だった。 「エピソード2　最強軍団は占いで生まれた？武田信玄若き日の苦悩」信玄は家臣のために祈ったり、ほうびを与えたり、温泉を用意して福利厚生を充実させたり…と家臣が気持ちよく働けるよう気を配り、その心をつかんでいった。 「エピソード3　激突！長篠の戦い　戦場に散った忠義の男たち」信長は最強武田を叩くため3000丁の鉄砲を準備、万全の手を打つ。案の定、信長の作戦はことごとく的中、勝頼の命も風前の灯火となったその時、信長に立ちはだかったのが、命がけで主君を守ろうとする武田の男たちだった。 【字幕制作：とちぎ視聴覚障害者情報センター】 渡邊あゆみ		
			利用区分：B-3	43分	字幕

DD　人間関係（ドキュメンタリー人間劇場など）

	分類番号	タイトル名	内容		
1	DD2007-009	知るを楽しむ　人生の歩き方　夜間中学校は僕らのふるさと 第1回　夜間中学校との出会い	昼間の学校が終わった夕方5時に年齢も生まれた国も違うさまざまな人が通う学校・夜間中学校。生徒は皆、昼間の中学に通えなかった人たち。その夜間中学で42年間、国語の教師として夜間中学一筋に教え続けた見城慶和さんに夜間中学との出会いを伺う。見城慶和		
			利用区分：B-3	25分	字幕
2	DD2007-010	知るを楽しむ　人生の歩き方　夜間中学校は僕らのふるさと 第2回　生きる力を支える言葉	42年間、夜間中学校の教壇に立ち続けた見城慶和さん。夜間中学に通う生徒は時代と共に変わる。高度経済成長期は、終戦直後に中学に通えなかった人たちが大人になって夜間中学に入ることが多かった。その生徒たちの生きる力を支える「言葉」について伺う。		
			利用区分：B-3	25分	字幕
3	DD2007-011	知るを楽しむ　人生の歩き方　夜間中学校は僕らのふるさと 第3回　不登校の君へ	1975年ごろから昼間の学校に通えない不登校の生徒が、夜間中学校に増え始めていった。心によろいを着せて、誰とも口をきかなかった生徒が、夜間中学で、みんなの前で初めて声を出して本を読むことができた。昼間の学校と夜間中学校はどこが違うのか。見城さんに夜間中学の教育力について伺う。見城慶和		
			利用区分：B-3	25分	字幕
4	DD2007-012	知るを楽しむ　人生の歩き方　夜間中学校は僕らのふるさと 第4回 「鈍行列車」で行こう	42年間にわたる夜間中学校の教師生活で、見城慶和さんは2000人を超える卒業生を送り出した。そして、2003年3月、見城さんは定年を迎え教師生活を終えた。しかし夜間中学校を卒業しても、更に「学び」を求める人は多い。見城さんの「学び」に対する思いを伺う。		
			利用区分：B-3	25分	字幕
5	DD2010-001	SBSスペシャル　家族の肖像～47回目のラストスパート～	浜松市に住む永井恒さんは、生まれつき耳が聞こえない。浜松ろう学校中等部に在学していた時、校内マラソン大会で優勝したのを機にマラソンを始め、27歳の時には、マラソンで聴覚障害者の日本記録を樹立した。 その後、一時は走ることから遠ざかっていた永井さんだが、息子の闘病を機に再び走り始め、今は、全都道府県すべてのマラソン大会で優勝することを目指している。残るはあと1県、岡山県での優勝だ。		
			利用区分：B-3	47分	字幕

6	DD2010-004	生きる×2　第264回　平成20年度年間優秀作品　声は消えても～心で奏でるシンフォニー～	福岡を拠点に活動している音楽家の田原泰徳さんは、7年前に舌がんを患って声帯を摘出、声を失った。そしてそのために、大学で専攻したホルンの演奏もできなくなってしまった。 しかし田原さんは、筆談とジェスチャーを使い、様々な音楽活動を通して、人々に音楽のすばらしさを伝えていく。田原さんの、音楽を通した仲間たちとの触れ合いの日々を追う。		
			利用区分:B-3	25分	字幕
7	DD2010-005	プロフェッショナル　仕事の流儀　人生によりそい、がんと闘う乳腺外科医　中村清吾	乳がん治療のエキスパート中村清吾。彼の元には全国から乳がんの女性が押し寄せる。乳がん患者は40代以降の女性が多い。大半が家庭や職場で重要な役割を果たしている女性たちだ。子育てや仕事を抱えながら病気と闘う女性たちに、心から寄り添う中村の姿を追う。		
			利用区分:B-3	48分	字幕
8	DD2010-006	情熱大陸　シェフ・パティシェ　長江　桂子	フランス・パリの一ツ星レストランでシェフ・パティシエを務める長江桂子（ながえけいこ）さん。 お菓子の本場・パリでいま、最も注目を集めるパティシエだ。日本人らしい繊細さと周囲も驚く努力で、遅いスタート・女性・東洋人という3つのハンディを乗り越えた長江のデザートは2年前、有名三ツ星シェフであるミッシェル・トロワグロの目に留まり、「オテル・ド・ランカスター」でシェフ・パティシエに抜擢された。自由で斬新なアイディアが評判の店だ。 なぜ彼女のデザートはフランス人を魅了するのか…。番組では秋の新作メニューの試作から完成までを取材、長江の発想法と同僚パティシエも舌を巻く高度な技術に迫る。（番組HP参照） 【字幕制作寄贈：群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザ】		
			利用区分:B-3	25分	字幕
9	DD2011-001	NHKアーカイブス　あの人に会いたい　遠藤周作	各界で活躍する人々を迎え、その生の声を聞くインタビュー番組。今は故人となった人物の貴重な映像をお届けする。 人と宗教の関係を描いた作品を数多く残した作家・遠藤周作。遠藤周作は、人間の生きざまを問う作品を発表する一方で、自ら狐狸庵山人と称し、ユーモアあふれる作品も多数残した。		
			利用区分:B-3	10分	字幕
	DD2011-002	NHKアーカイブス　あの人に会いたい　司馬遼太郎	国民的文学といわれる「竜馬がゆく」や「坂の上の雲」の作者・司馬遼太郎。その歴史観は「司馬史観」とも呼ばれ、亡くなった今も、多くの人をひきつけている。 従軍中のエピソードや竜馬への共感、そして日本人に求める規範について、司馬遼太郎が語る。		
			利用区分:B-3	10分	字幕
	DD2011-003	NHKアーカイブス　あの人に会いたい　乙羽信子	女優・乙羽信子は、半世紀にわたり映画、テレビで活躍してきた。夫の新藤兼人監督とのコンビで、40本以上の作品を残している。生い立ちから「100万ドルのえくぼ」のキャッチフレーズでのデビュー、そして演技派女優への転身のきっかけ、夫との関係まで、裏話を交えて語る。		
			利用区分:B-3	10分	字幕
10	DD2011-004	NHKスペシャル　働き盛りのがん	日本対がん協会の常務理事・関原健夫さんは大腸がんから肝臓や肺への転移を繰り返し、6回のがん手術を乗り越えて生き延びてきた。番組では関原さんのほかに、4名のがん患者を迎え、働きざかりの若い年齢でがんになり、闘病していくことの難しさや現実を語ってもらう。		
			利用区分:B-3	89分	字幕
11	DD2011-005	情熱大陸　塾講師　髙濱正伸	受験中心の学習塾界へ、全く新しいスタイルの塾を誕生させた塾講師・髙濱正伸。教員資格を持っていない髙濱の目指しているのは偏差値を伸ばす教育ではなく、偏差値が伸びる教育。勉強のテクニックではなく「なぜ学び、何を学ぶのか？」という勉強に取り組む“姿勢”そのものだ。		

			利用区分:B-3	25分	字幕
12	DD2011-006	情熱大陸　600回記念シリーズ　建築家　安藤忠雄	安藤忠雄は現代の建築界の頂点に立つ男だ。下町に生まれ工業高校でボクシングに明け暮れていた若者が、東大出身が当たり前という建築の世界の頂点に立った。その生き方は今の若者たちを勇気づける。日々世界を飛び回り、設計の仕事に打ち込むエネルギッシュな安藤の姿を追う。		
			利用区分:B-3	25分	字幕
13	DD2011-009	プロフェッショナル 仕事の流儀　涙も笑いも、力になる ～院内学級教師・副島賢和～	院内学級とは、病気やけがなどが理由で学校に通えない子どもたちのための病院内施設。 副島は、ここで勉強を教えると同時に、一つのことを大切にしている。子どもたちの不安や心配を解きほぐすことだ。 「子どもを下から持ちあげる」「そうっと、そばにいる」…。 番組は、日々子どもに寄り添う副島（そえじま）先生を追いながら、その極意を伝える。		
			利用区分:A-3	48分	字幕
14	DD2012-007	情熱大陸　地域紙　石巻日日新聞	宮城県石巻市にある地域新聞、石巻日日新聞社。東日本大震災により、社屋は倒壊は免れたものの、津波に襲われ輪転機は止まってしまった。そんな中、記者たちは地域住民に何とか情報を伝えたいと、手書きの壁新聞を毎日作り続けた。		
			利用区分:B-3	25分	字幕
15	DD2012-009	新日曜美術館　シリーズ 創作の現場ドキュメント（1） 写真家・石内都「ひろしま」との対話	鬼写真家・石内都。1979年、女性初の木村伊兵衛賞受賞、2005年にはヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表となるなど、日本の写真界の一線を走り続けてきた女性写真家だ。昨年、石内は新たな撮影に挑んだ。テーマは「広島」。広島平和記念資料館に保管されてきた、原爆で亡くなった人の遺品など、「被爆資料」にカメラを向けたのだ。焼けこげたワンピース、引きちぎられた上着・・。どの品物にも空前の惨劇の傷跡が残る。石内は、一点一点に語りかけるようにシャッターを切りながら、原爆で断ち切られた人々の「その瞬間」以前に思いをはせ、そこに刻まれた生命の痕跡を鮮やかに蘇らせていく。確かに人生を謳歌し、生きていた遺品のあるじたち。石内の写真の中で、被爆資料たちは、自らの刻印された人生を、愛を、静かに語り始める。 これは、一人の写真家の一年半に渡る「広島」との対話の記録である。（NHK番組HPより抜粋） 【字幕制作寄贈：群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザ】		
			利用区分:B-3	45分	字幕
16	DD2013-001	プロフェッショナル 仕事の流儀　闘う介護、覚悟の現場 介護福祉士　和田行男	日本全国で200万人を超えるといわれる認知症。その介護の世界に、新しい風を吹き込み続ける和田行男さん。介護の仕方によっては“普通に生きる姿”を続けられると主張。認知症のお年寄りたちが家庭的な環境のもと、少人数で共同生活を送る「グループホーム」で、先駆的な取り組みを続けてきた。 和田行男さんの施設では、お年寄りたちは、自分でできることは自分でするのがルール。けがや事故のリスクも常にある。それでも和田行男さんは、お年寄り1人1人の認知症の度合いや身体能力などを見極めながら、できる限り“普通の暮らし”を維持できるよう奮闘し続ける。		
			利用区分:A-3	48分	字幕
17	DD2013-019	プロフェッショナル　仕事の流儀　希望のリハビリ、ともに闘い抜く　リハビリ医　酒向正春	リハビリの現実は、決してなまやさしいものではない。脳卒中による後遺症を抱えた患者の中には、せん妄やうつ病など、精神的なダメージを負ってしまうケースが少なからずあり、それがリハビリを難しくする。しかしリハビリ医の酒向（さこう）は、どんなに困難なケースでも、最後の最後まで粘り抜く。リハビリには、患者の人生を取り戻すという大切な役割があると、信じているからだ。（NHK HP参照）		
			利用区分:A-3	48分	字幕